

平成28年度

かほく市教育委員会
点検及び評価報告書

平成29年8月

かほく市教育委員会

はじめに

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、平成28年度のかほく市教育委員会の活動を振り返るとともに、「かほく市教育振興基本計画」に基づき具体的施策について、自ら事務事業の点検及び評価を行い、教育に関し学識経験を有する方々からの意見もいただいて作成したものです。

かほく市教育委員会は、「自ら考え ともに学び 明日をひらく人づくり」を目指すため、創造力と生きがいを育む教育の推進に努力してまいります。

平成29年8月

かほく市教育委員会

目 次

I	教育委員会の活動状況	1
	(1) 総合教育会議の開催・審議状況	1
	(2) 教育委員会会議の開催・審議状況	1
	(3) 教育委員の主な活動状況	4
II	点検及び評価	6
	(1) 総括	6
	(2) 点検評価の方法	7
	(3) 昨年度の学識経験者からの主な意見に対する取組	8
	(4) 学識経験者の主な意見等	9
■基本目標 1 確かな学力をはぐくみ一人一人の個性を大切にします		
	基本的方向 1-(1) 確かな学力の育成	10
	①基礎、基本の定着と活用力の向上	
	②家庭学習の定着と充実	
	③学習指導法の工夫改善	
	④教師の資質の向上と組織的な学校経営	
	⑤教育センターの研修事業	
	基本的方向 1-(2) 豊かな人間性の育成	14
	①道徳教育の充実	
	②特別支援教育の充実	
	③いじめ、不登校や問題行動の防止	
	④キャリア教育の推進	
	⑤コミュニケーション能力の育成	
	⑥幼稚園、保育園と小学校、中学校の連携	
	基本的方向 1-(3) 児童生徒の体力増進と運動能力の向上	18
	①学校における運動機会の充実	
	②健康づくり、体力向上をめざす教育の充実	
	③安全でおいしい給食の提供	
■基本目標 2 家庭・地域・学校が連携し 教育力の向上に取り組みます		
	基本的方向 2-(1) 家庭教育活動の充実	22
	①子育て支援のためのサポート体制の強化 <教育委員会所管外>	
	②家庭教育に関する学習機会の拡充	
	③体験活動によるコミュニケーションの促進	
	基本的方向 2-(2) 人材の育成と地域活動の活性化	23
	①地域づくり人材の育成	
	②地域活動の支援体制の充実	
	③情報の共有化とネットワークづくり	
	④学校支援ボランティア事業の推進	
	⑤コミュニティ・スクール等の設置	
	基本的方向 2-(3) 学校から家庭、地域への働きかけ	26

- ①学校の教育活動の発信
- ②学校開放、学校行事への参加促進
- ③学校と連携した家庭教育の啓発

基本的方向 2- (4) 関係機関の連携強化 2 8

- ①教育相談体制の充実
- ②問題を抱える子ども等の自立支援
- ③児童の放課後活動の充実（児童館、学童保育クラブ）＜教育委員会所管外＞
- ④高等教育機関との連携
- ⑤少年愛護センターとの連携

■ **基本目標 3 生涯にわたって学ぶ意欲を持ち 豊かな人間性を育成します**

基本的方向 3- (1) とともに学び合う機会の拡充 3 0

- ①学習情報の発信
- ②学習成果を生かした社会参加の促進
- ③生涯学習フェスティバルの開催
- ④市民大学講座事業の展開

基本的方向 3- (2) 地域のコミュニティ活動の推進 3 2

- ①地域住民が主体となる学習環境の整備
- ②地域活動の拠点となる施設の整備
- ③地域活動団体への支援体制の確立
- ④町会・区との連絡体制の整備

基本的方向 3- (3) 読書環境の充実と読書活動の推進 3 4

- ①図書館サービスの強化
- ②子どもの読書活動の推進
- ③市立図書館と学校図書館との連携
- ④ICT化への取り組み

基本的方向 3- (4) 博物館活動の充実と情報発信 3 6

- ①石川県西田幾多郎記念哲学館の充実
- ②うみっこらんど七塚「海と渚の博物館」の充実

■ **基本目標 4 郷土の自然、歴史、文化を継承し 芸術文化活動の充実を図ります**

基本的方向 4- (1) ふるさと学習の充実 3 8

- ①地域に根ざした学習活動の推進
- ②四季の風土を感じるプログラムの実施
- ③かほく市ゆかりの人物の紹介と全国への発信

基本的方向 4- (2) 芸術文化活動の促進と支援 4 0

- ①すぐれた芸術に触れる機会の提供
- ②文化活動団体・個人への支援
- ③地域や世代を越えての交流の促進

基本的方向 4- (3) 未来に伝える文化財の保護と活用 4 2

- ①歴史学習の充実
- ②考古、歴史、民俗資料の活用
- ③国、県、市指定文化財の保護と活用
- ④地域学習や学校授業への活用
- ⑤保管活用施設等の充実
- ⑥職員の専門性の強化

■基本目標 5 豊かなスポーツライフの創造をめざします	
基本的方向 5- (1) 生涯スポーツの推進 ……………	4 4
①スポーツ推進委員の役割	
②体を動かす機会の提供と日常化の促進	
③他団体との連携による健康・体力づくりの取組	
基本的方向 5- (2) 競技スポーツの拡充・強化、底辺の拡大 ……………	4 6
①各種スポーツ大会の実施	
②児童、生徒の競技力向上のための大会の開催・支援	
③競技スポーツ指導者の育成と指導体制の強化	
④全国大会等出場者への激励	
基本的方向 5- (3) スポーツ団体の育成支援と連携 ……………	4 8
①スポーツ少年団への支援	
②体育協会との連携	
③総合型地域スポーツクラブへの支援と連携	
④健康クラブへの支援	
⑤各種団体の相互連携支援	
■基本目標 6 時代に応じた魅力ある学習環境を作ります	
基本的方向 6- (1) 安心して学べる教育環境の充実 ……………	5 0
①学校防災マニュアルの策定	
②自分の身を守る教育の充実	
③育英制度、奨学金制度の充実	
④老朽建物の改築・改修	
⑤非構造部材の耐震化	
⑥ I C T 機器の整備	
⑦環境に配慮した教育設備の充実	
基本的方向 6- (2) 生涯学習の拠点となる施設の適正管理と活用 ……………	5 3
①生涯学習センターの運営管理	
②地域交流施設の有効活用	
基本的方向 6- (3) スポーツ施設整備の推進と活用 ……………	5 4
①施設の統合計画の推進	
②施設機能の充実・強化	
③効率的な管理・運営	
④学校体育施設の有効活用	
■基本目標 7 異なる文化や価値観を尊重し世界に通じる人づくりを進めます	
基本的方向 7- (1) 多文化共生社会および国際化に対応した教育の充実 ……………	5 6
①国際交流事業の推進	
②多様な文化に対する理解の推進	
③実践的な外国語教育の充実	
基本的方向 7- (2) 人権教育の推進 ……………	5 8
①学校における人権教育	
②人権意識の向上に向けた活動の推進	
III 資料 ……………	5 9

I 教育委員会の活動状況

(1) 総合教育会議の開催・審議状況

平成28年度は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項に定める総合教育会議を1回開催し、3件の議件について協議・調整しました。

◎平成28年度総合教育会議開催状況

開催日	協議・調整事項
平成28年12月15日	学校施設（七塚小学校・外日角小学校）の長寿命化改修について 学童保育クラブの現状について 通学路の安全点検（路側帯のグリーンゾーン）について

(2) 教育委員会会議の開催・審議状況

平成28年度は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条に定める職務について、及び「市長の権限に属する事務の一部を教育委員会に委任する規則」の規定に基づき、教育委員会会議を11回開催し、議案20件について審議しました。

また、教育委員会の新制度以降、会議の審議内容について、会議録をホームページに公開し、開かれた教育委員会を目指しました。

◎平成28年度教育委員会会議開催状況

回（開催日）	審議決定事項
平成28年第3回 （平成28年4月28日）	議案第13号 かほく市教育長職務代理者の指名について 議案第14号 かほく市教育長職務代理者の事務委任規則の制定について 議案第15号 かほく市教育委員会会議運営等について 議案第16号 かほく市特別支援教育推進委員会委員の委嘱について 議案第17号 旅館業法の営業許可に係る意見について 議案第18号 かほく市公民館長の任命について 議案第19号 かほく市少年愛護センター少年愛護員の委嘱について 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種組織の委員の確定報告について ・ 平成28年度第1回学校運営協議会の概要について ・ 平成27年度教育センター事業報告及び平成28年度事業計画について
平成28年第4回 （平成28年5月27日）	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度第1回社会教育委員会会議の結果について ・ かほく市家庭教育指針について ・ 平成28年度コミュニティ・スクールプランに係る査定結果について
平成28年第5回 （平成28年6月28日）	議案第20号 かほく市学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則について 議案第21号 かほく市公民館長の任命について 議案第22号 平成27年度かほく市教育委員会点検及び評価報告書について 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度6月補正予算について ・ 平成28年度加賀地区中学校体育大会の結果報告について ・ 平成28年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費6月認定結果について ・ 平成28年度奨学資金支給に係る奨学生の決定について

回（開催日）	審議決定事項
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 13 回かほく市生涯学習フェスティバルについて ・ 第 68 回石川県民体育大会出場予定一覧について ・ 平成 28 年度姉妹都市青少年交流メスキルヒ市訪問団の派遣について ・ 教育委員県外視察について
平成 28 年第 6 回 (平成 28 年 7 月 28 日)	<p>議案第 22 号 平成 27 年度かほく市教育委員会点検及び評価報告書について（継続）</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 28 年度石川県中学校体育大会の結果報告について ・ 第 6 回かほく市子ども議会について ・ 平成 28 年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費 7 月認定結果について ・ 平成 28 年度特別支援教育奨励費 支給決定結果について ・ 平成 28 年度外国語指導助手（新規）について ・ 平成 28 年度第 2 回社会教育委員会議の結果報告について ・ 第 29 回 JAPAN TENT(かほく市プログラム)について
平成 28 年第 7 回 (平成 28 年 8 月 18 日)	<p>議案第 22 号 平成 27 年度かほく市教育委員会点検及び評価報告書について（継続）</p> <p>議案第 23 号 かほく市公民館長の任命について</p> <p>議案第 24 号 かほく市学校運営協議会委員の任命について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 28 年度北信越中学校総合競技大会等成績一覧について ・ 平成 28 年度かほく市立小中学校運動会日程及び臨席について ・ 平成 28 年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費 8 月認定結果について ・ 第 68 回石川県民体育大会成績について ・ 平成 28 年度石川縣市町教育委員会連合会臨時総会及び研究大会について
平成 28 年第 8 回 (平成 28 年 9 月 28 日)	<p>議案第 25 号 平成 28 年度かほく市教育委員会表彰被表彰者の決定について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 28 年度全国中学校体育大会等成績一覧について ・ 平成 28 年度 9 月補正予算について ・ 平成 28 年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費 9 月認定結果について ・ 総合教育会議について ・ 学力調査（国・県・市）の結果と前期学校訪問まとめについて
平成 28 年第 9 回 (平成 28 年 11 月 2 日)	<p>議案第 26 号 かほく市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 28 年度河北郡市中学校新人体育大会等の結果について ・ 平成 28 年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費 10 月認定結果について ・ 第 13 回かほく市成人式について ・ 第 13 回かほく市立志式について ・ 総合教育会議の議題（学校施設整備計画）について

回（開催日）	審議決定事項
平成 28 年第 10 回 (平成28年12月20日)	<p>議案第 27 号 かほく市立学校管理規則の一部を改正する規則について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度加賀地区中学校新人体育大会の結果について ・平成 28 年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費 11 月認定結果について ・就学援助費（入学準備費）の早期支給等について ・県費負担教職員の自家用車の児童及び生徒の同乗について ・コミュニティ・スクールの取組状況について ・第 13 回かほく市制施行記念継走大会について ・平成 28 年度 12 月補正予算について ・平成 29 年度当初予算要求について ・平成 28 年度かほく市特別支援教育推進委員会の結果について
平成 29 年第 1 回 (平成29年1月25日)	<p>議案第 1 号 かほく市教育委員会が所管する公の施設の指定管理者の選定について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費 1 月認定結果について ・第 13 回かほく市成人式参加状況について ・第 13 回かほく市制施行記念継走大会の参加申込状況について ・第 13 回ぼうさい探検隊マップコンクール結果一覧について ・平成 29 年度当初予算要求概要について ・平成 29 年度主要事業予定について ・後期学校訪問のまとめについて
平成 29 年第 2 回 (平成29年2月28日)	<p>議案第 2 号 平成 29 年度かほく市教育目標について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費 2 月認定結果（入学準備費 3 月支給分含む）について ・平成 29 年度当初予算（案）について ・平成 28 年度 3 月補正予算（案）について
平成 29 年第 3 回 (平成29年3月24日)	<p>議案第 3 号 石川県西田幾多郎記念哲学館条例施行規則の一部を改正する規則について</p> <p>議案第 4 号 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について</p> <p>議案第 5 号 かほく市学校運営協議会委員の任命について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 13 回かほく市制施行記念継走大会の結果について ・平成 28 年度第 3 回かほく市社会教育委員会議の結果について ・平成 29 年度学校コーディネーターの配置について ・平成 29 年 4 月 1 日付 かほく市教育委員会職員人事異動について

(3) 教育委員の主な活動状況

◎教育委員が出席した主な活動等

年 月 日	活 動 内 容
平成28年 4月 4日	平成28年度初任・新任教職員辞令交付式
平成28年 4月 6日	平成28年度かほく市立小中学校入学式
平成28年 5月 9日	平成28年度河北郡市教育委員会連合会定期総会
平成28年 5月10日	平成28年度石川県教育委員会連合会定期総会
平成28年 5月17日	前期指導主事訪問（七塚小学校）
平成28年 5月30日	前期指導主事訪問（河北台中学校）
平成28年 6月 2日	前期学校訪問（大海小学校・七塚小学校・高松中学校）
平成28年 6月 5日	第13回かほく市総合体育大会開会式
平成28年 6月 6日	第72回寸心忌・献花式
平成28年 6月 7日	前期学校訪問（外日角小学校・宇ノ気小学校・高松小学校）
平成28年 6月 9日	前期学校訪問（金津小学校・河北台中学校・宇ノ気中学校）
平成28年 6月10日	前期指導主事訪問（大海小学校）
平成28年 6月15日	前期指導主事訪問（宇ノ気中学校）
平成28年 6月17日	前期指導主事訪問（外日角小学校）
平成28年 6月18日	平成28年度加賀地区中学校体育大会（～20日）
平成28年 6月27日	前期指導主事訪問（高松小学校）
平成28年 6月29日	前期指導主事訪問（高松中学校）
平成28年 7月 5日	前期指導主事訪問（宇ノ気小学校）
平成28年 7月 8日	第68回石川県民体育大会出場選手壮行会
平成28年 7月14日	前期指導主事訪問（金津小学校）
平成28年 8月 1日	北信越中学校総合競技大会・全国中学校体育大会出場選手激励会
平成28年 8月 2日	石川県市町教育委員会セミナー
平成28年 8月 3日	北信越中学校総合競技大会（～5日）
平成28年 8月 6日	第68回石川県民体育大会（～7日）
平成28年 8月 8日	第6回かほく市子ども議会
平成28年 8月19日	全国中学校体育大会（～24日）
平成28年 9月 3日	中学校運動会（高松中学校、河北台中学校）
平成28年 9月10日	中学校運動会（宇ノ気中学校）
平成28年 9月10日	小学校運動会（七塚小学校、外日角小学校）
平成28年 9月14日	後期指導主事訪問（大海小学校）
平成28年 9月17日	小学校運動会（高松小学校、宇ノ気小学校）

年 月 日	活 動 内 容
平成28年 9月24日	小学校運動会（大海小学校、金津小学校）
平成28年 9月30日	後期指導主事訪問（宇ノ気中学校）
平成28年10月 1日	宇ノ気中学校野球部全国中学校体育大会優勝セレモニー
平成28年10月 4日	市指定公開研究発表会（河北台中学校）
平成28年10月 5日	第3回かほく市小学生体育大会
平成28年10月13日	後期指導主事訪問（七塚小学校）
平成28年10月14日	平成28年度石川縣市町教育委員会連合会研究大会
平成27年10月15日	平成28年度かほく市PTA大会
平成28年10月19日	後期指導主事訪問（高松小学校）
平成28年10月21日	後期指導主事訪問（金津小学校）
平成28年10月26日	市教育委員会県外（北名古屋市・多治見市）研修（～27日）
平成28年10月29日	平成28年度かほく市教育委員会表彰式
平成28年11月 4日	河北郡市教育委員会連合会研修会
平成28年11月 5日	河北台中学校創立60周年記念式典
平成28年11月11日	後期指導主事訪問（宇ノ気小学校）
平成28年11月17日	石川県視聴覚教育研究大会河北大会
平成28年11月21日	平成28年度全国市町村教育委員会研究協議会（～22日）
平成28年11月22日	後期指導主事訪問（外日角小学校）
平成28年11月25日	県指定「いしかわ道德教育推進事業」公開研究発表会（高松小学校）
平成28年11月27日	第3回かほく市民交流大会 室内ペタンク大会
平成28年11月29日	県指定「学びの組織的実践推進事業」公開研究発表会（宇ノ気中学校）
平成28年12月 1日	後期指導主事訪問（高松中学校）
平成28年12月 8日	後期指導主事訪問（河北台中学校）
平成29年 1月 8日	第13回かほく市成人式
平成29年 2月 1日	第13回かほく市立志式
平成29年 2月 7日	後期学校訪問（大海小学校、七塚小学校、高松中学校）
平成29年 2月 9日	後期学校訪問（高松小学校、河北台中学校、外日角小学校）
平成29年 2月14日	後期学校訪問（宇ノ気小学校、金津小学校、宇ノ気中学校）
平成29年 3月 7日	第13回かほく市制施行記念継走大会
平成29年 3月10日	平成28年度かほく市立中学校卒業式
平成29年 3月16日	平成28年度かほく市立小学校卒業式
平成29年 3月29日	平成28年度かほく市立小中学校教職員離任式

II 点検及び評価

(1) 総括

◇平成28年度に実施した具体的施策について、かほく市教育振興基本計画（計画期間：平成26年度～平成35年度）に基づく「基本的方向」に示した「具体的な取組」のうち、教育委員会が所管する84項目の達成状況を、次のとおり4段階に区分し評価する。

- A：計画（最終）目標を達成している
- B：計画どおり進んでいる
- C：計画より遅れている
- D：具体的な取組がなされていない

◇「基本的方向」に示した「具体的な取組」のうち、教育委員会が所管する84項目について4段階による達成状況及びその分析

- A：26項目（31%）
- B：58項目（69%）
- C：0項目（0%）
- D：0項目（0%）

かほく市教育振興基本計画の「基本的方向」に示した「具体的な取組」で、達成状況により評価した場合、上記のような結果となりすべてにおいて「計画（最終）目標を達成している」または「計画どおり進んでいる」となっている。全体を通して概ね順調に事業等を展開できたと考える。

今後も教育環境及び学習環境等社会情勢の動向を的確に捉え、スクラップ・アンド・ビルドを行いながら創意工夫を凝らし、各種の施策を推進し、計画（最終）目標の達成につなげるとともに、平成30年度には本計画の中間年に当たることから、平成29年度において計画の見直し作業に着手する必要がある。

◇平成28年度新たに取り組んだ施策等の概要

- ・金津小学校について、平成27年度に国の補助採択（平成28年度に繰越）を受け、大規模改造工事を実施した。
- ・高松小学校、大海小学校、宇ノ気小学校、及び高松中学校の普通教室について、平成28年度に国の補助採択を受け、エアコン整備工事に着手した。（平成29年度へ繰越）
- ・七塚小学校と外日角小学校について、耐力度調査・老朽化状況調査を実施し、その結果を踏まえ、長寿命化改修事業により整備することとし、老朽化の進行が進んでいる外日角小学校の基本設計に着手した。（平成29年度へ繰越）また、七塚小学校の基本設計については、平成29年度に着手することとした。
- ・小学校外国語教育について、平成30年度からの先行実施に向け、推進校の選定、ALTの配置、実施スケジュール等の方向性について検討を行った。

- ・「学校を核とした地域活力（地域教育力）向上事業」として、平成 26 年度より準備を進めていたコミュニティ・スクールをスタートし、各校の特色ある取組の実施に対し「コミュニティ・スクールプラン補助金」を交付した。また、市民のコミュニティ・スクールへの理解促進と平成 28 年度の活動報告も兼ねて「コミュニティ・スクールシンポジウム in かほく」を開催した。
- ・「西田幾多郎記念哲学館の充実による人づくり事業」として、西田哲学館の充実・活性化事業を展開した。展示棟のリニューアルに対応した新しいリーフレット及びガイドブック（有料：日本語版、英語版、中国語版、ドイツ語版）を作成したほか、平成 27 年度に寄託を受けた西田家資料の保存処理を行い、その調査作業における京都大学・金沢大学との協力体制を整えた。
また、哲学の杜ライトアップのスタートに向けて、哲学館の開館時間の延長など運営に係る準備を進めた。さらに、多数の貴重な資料の調査研究の促進と活用、情報発信のため、国の交付金の採択を受け、調査研究棟の整備に着手した。（平成 29 年度へ繰越）
- ・哲学館では、能動的に哲学を楽しむトークイベントとして「哲学カフェ（哲学対話）」を一般向けに開催した。また、12 月には「中学生のための哲学カフェ」を、2 月には「小学生の哲学カフェ（高松小学校）」を開催した。
- ・ボランティア観光ガイド「かほく夢案内スマイル」と協働し、市内の文化歴史的ポイントに音声や動画を配信する QR コードを設置した。平成 30 年度まで継続的に作業を進め、市内文化財等の周知と活用につなげていく。
- ・ウォーキング活動を促進するため、日本ウォーキング協会認定の「新歩く道紀行 100 選」に選ばれた 2 つのウォーキングコースのマップを作成し、あわせて看板を整備した。
- ・市内在住の外国人に対する「日常生活の便利帳」として、かほく市ガイドブック（英語版、中国語版）を作成した。

（2）点検及び評価の方法

点検及び評価は、施策に基づく事業内容と実績を明らかにするとともに、成果と課題などを示している。

また、点検及び評価にあたっては、教育に関し学識経験を有する方として、羽田輝雄氏、宮前昭夫氏、能任まち子氏から様々な意見や助言を得た。

(3) 昨年度の学識経験者からの主な意見に対する取組

昨年度の主な意見	左記に対する取組内容・今後の対策
<p>これまでの教育委員長と教育長が一本化された(新)教育委員会制度がスタートした。社会情勢の急変、緊急案件に対して、迅速かつ柔軟な対応がとれる体制となるよう期待する。</p>	<p>新たな教育委員会制度の趣旨にあるとおり、市長部局と連携を図り、適時適切な対応が取れるように努めている。また、緊急事案に対しても迅速かつ柔軟に対応していく。</p>
<p>学校教育施策については、学力調査の結果を見ても、小学校すべての学年で35人以下学級導入によるきめ細かい指導により効果が表れている。学力調査で結果の悪かった中学校の「英語」について、外国語指導助手(ALT)の活用を含め、外国語活動の取組を検討するとともに、いじめや不登校への対応、特別支援教育についても、きめ細かな指導を望む。また、子どもと向き合う時間を確保するため学校の校務管理等についてICT化をさらに進めるなど、教職員の負担軽減対策を進めるとともに、児童生徒の個人情報漏洩がないよう徹底した管理を指導すべきである。</p>	<p>各中学校の英語教諭が参加する研修会を通して、指導力の向上に努めてきた。また、小学校5年生からの外国語教育(英語)先行実施に向け、カリキュラムの理解、指導方法などALTの質の向上に向けた取組を含めて検討を行った。</p> <p>いじめ・不登校への対応については、QU調査を活用した未然防止・早期発見に努めてきた。特別支援教育については支援員の増員を行った。</p> <p>教職員の負担軽減対策については、指導要録の電子化を行い、また、今後各学校での勤務実態を把握し、効果的な対策を検討する。</p> <p>個人情報の漏洩については、校長会を通じて情報管理の徹底について再度指導を行った。</p>
<p>社会教育施策について、親子で参加する教室、子どもを対象とする教室など多くの事業に取り組んでいるが、教育行政で行う意義が見えない事業が見られる。行政として実施する事業、子ども会などの社会教育団体との連携や民間へ委託するなど役割分担について検討すべきである。</p>	<p>親子のふれあい・絆を深める機会の提供として親子教室を開催し、子どもの体験活動の充実を目的としてプログラミング教室などの子ども教室を実施した。</p> <p>なお、子どもの体験活動は、各種団体やグループとの連携により実施した。</p> <p>民間など、既に活動の場、体験の場があるものについては、市として実施しない方向とする。</p>
<p>家庭教育施策について、子育て環境を含めた社会情勢が変化し、その取組が年々難しくなっており、家庭教育の質の低下が気付きである。PTAと学校の連携も大切であるが、家庭教育の重要性について保護者一人一人が認識を深められるよう、教育委員会の施策だけではなく、他の部局との連携を含め、積極的な啓発・取組が必要である。</p>	<p>社会教育委員からの提言を踏まえ「かほく市家族の愛言葉」を発案し、市広報などで周知啓発することとした。</p> <p>家庭教育に係る施策の展開については、「子ども・子育て支援事業計画」にも掲げられており、就学前の子どもを持つ親の「親育て」について、子育て支援課が中心的に取組むこととしているが、教育部局としても家庭の教育力の向上に向けて、PTAだけでなく同課や子育てサークルなどとの連携を検討する。</p>
<p>子どもたちには、将来、家庭で生かされる道徳教育について検討すべきである。</p>	<p>道徳教育については、小学校では平成30年度から教科化されることから、実践や研究を進めるとともに、家庭と連携を図っていく。</p>
<p>幼保小中の連携について、子どもたちは自分たちと違う世界に触れると目を輝かせる。これまでと違った体験・交流機会を増やすことも検討すべきである。</p>	<p>これまで行ってきた様々な交流活動について、連携推進委員会において内容を見直し、幼児・児童・生徒の実態に応じて体験的な活動を取り入れるよう工夫を重ねた。</p>
<p>平成28年度からスタートしたコミュニティ・スクールは、地域の皆さんにはまだ十分に理解されていない。地域への積極的なPRを願うとともに、学校と地域が共有できる取組を進めるべきである。</p>	<p>広報掲載、市HPへの資料掲載、公民館長や町会区長会連合会への説明、シンポジウムの開催などにより、市民への認知拡大と理解の促進を図った。</p> <p>学校運営協議会での協議を踏まえ、各学校において、学校と地域が連携した特色ある取組が展開された。</p>
<p>災害時の拠点避難所となっている学校においては、防災マニュアル作成にとどまらず、いざという時に現場が混乱しないような訓練、打合せ等を早急に実施すべきである。</p>	<p>防災環境対策課と連携し、災害時に拠点避難所として設けるべきスペース(避難者生活スペース、救護室、介護室等)について、学校長と協議しながら選定した。</p> <p>また、市の防災訓練に学校職員が参加し、避難所運営における役割を確認した。</p>

(4) 学識経験者の主な意見等

- ・今回の点検評価報告書については、評価項目が細分化され、昨年までの「施策の基本的方向」の22項目から「具体的な取組」の84項目に変わった。非常に判りやすく、職員のやりがいにもつながることになり良かった。
- ・教育振興基本計画は、その期間が平成26年度から平成35年度までの10年間となっているが、社会の変化が早く、課題も多様化する現状においては、中間見直しが重要となる。見直しにあたっては、国際化や情報化など、次期学習指導要領の目指すべき姿を盛り込んでほしい。
- ・次期学習指導要領の改訂内容を踏まえて、先行的取組の促進を期待する。特に小学校の外国語教育については、内容や教材、手法などについて十分な配慮と工夫が必要である。英語に親しむ環境づくりを検討してほしい。
- ・中学校部活動のあり方について、教職員負担の実情を具体的に把握したうえで、教職員の負担軽減が図られるよう、休日の設定、外部指導者の活用を含め、検討してほしい。また、市教育委員会指定研究は、教職員の資質向上を図る上で大切であり、ICTの活用を含め検討するとともに、教職員の負担軽減につながるよう、指定研究のあり方についても検討してほしい。
- ・不登校の問題は、友人関係、学業不振、部活動の不適応、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係、本人の問題などが複雑にからみ合い、起きているという現状であり、学校や教育センターだけの対応では解決が難しい。福祉部局を始めとする関係機関と情報共有、連携を密にして的確な状況把握、相談・支援体制を構築してほしい。また、保護者とのコミュニケーションによる相互理解を深め、家庭としての取組につながる施策を展開してほしい。
- ・子育て世代の最大の希望は安全安心な社会であり、地域における人と人とのつながり、顔の見える人間関係の構築が安全安心の確立につながる。コミュニティ・スクールを通じて、人と人とのつながりが強まる施策の展開を期待する。コミュニティ・スクールとして、地域の防災訓練への小中学生の参加や中学生の防災士育成などの取組ができないか検討してほしい。
- ・新たにスタートした哲学の杜ライトアップを活かした事業の展開を図り、哲学館やうみっこらんど七塚を交流人口の引き込み、観光資源として活用することを検討してほしい。

基本的方向 1－(1) 確かな学力の育成

① 基礎基本の定着と活用力の向上		達成状況 A																																																																						
担当課	学校教育課																																																																							
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校3年から中学校3年までを対象に、国・県・市事業にて学力調査を下記のとおり実施し、教職員の指導方法の改善に努めるため、自校採点を取り入れ、早期に学力等の現状分析を行い、指導改善につなげている。各学年及び学校間において、基礎学力及び活用力に較差が見られることから、特に、学力が低い学年においては、補充学習を設定するなど底上げとなる指導を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> * 小学3年生（国語・算数 「市調査」） * 小学4年生（国語・算数 「県調査」） * 小学5年生（国語・算数 「市調査」） * 小学6年生（国語・算数・理科 「国調査」、社会「県調査」） * 中学1年生（国語・数学 「市調査」） * 中学2年生（国語・数学・英語 「市調査」） * 中学3年生（国語・数学 「国調査」、英語・社会・理科「県調査」） ・ 平成28年度の学力調査結果において、小学校、中学校ともに全教科で全国平均を上回り、全国上位である石川県の平均も小学校、中学校ともに全教科で上回る好成績であった。 ・ 教育委員会による学力向上ヒアリングを実施し、各校の課題を明確にするとともに、改善に向けた取組を具体的なものにすることができた。 ・ 国及び県事業によって、小学校1年から4年までが35人以下学級であるが、引き続き市独自事業として小学校5年と6年において、35人以下学級を実施し、児童の実態に応じたきめ細かな指導を行うことで、児童が落ち着いて学習に取り組むことができた。また、少人数の利点を最大限に生かした指導を行うことができた。 <ul style="list-style-type: none"> * 平成25年度 小学校5年を対象に35人以下学級を導入（講師2人採用） * 平成26年度 小学校6年までを対象に35人以下学級を導入（講師3人採用） * 平成27・28年度 小学校6年までを対象に35人以下学級を導入（講師2人採用） <p><全国学力調査におけるかほく市の平均点と石川県の平均点の比較></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年・科目</th> <th colspan="4">かほく市</th> <th rowspan="2">学年・科目</th> <th colspan="4">石川県</th> </tr> <tr> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">小学6年生</td> <td>国語A（知識）</td> <td>0.9</td> <td>▲0.1</td> <td>3.1</td> <td>0.6</td> <td rowspan="5">中学3年生</td> <td>国語A（知識）</td> <td>0.9</td> <td>1.7</td> <td>1.2</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>国語B（活用）</td> <td>0.8</td> <td>▲0.4</td> <td>0.9</td> <td>1.3</td> <td>国語B（活用）</td> <td>1.8</td> <td>5.5</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>算数A（知識）</td> <td>1.0</td> <td>▲1.5</td> <td>2.9</td> <td>1.6</td> <td>数学A（知識）</td> <td>2.0</td> <td>3.3</td> <td>1.0</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>算数B（活用）</td> <td>1.0</td> <td>▲4.2</td> <td>2.3</td> <td>2.1</td> <td>数学B（活用）</td> <td>1.7</td> <td>3.0</td> <td>1.0</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>理科※（国・県）</td> <td>▲0.3</td> <td>▲0.3</td> <td>1.6</td> <td>3.5</td> <td>理科※（国・県）</td> <td>4.8</td> <td>1.2</td> <td>2.2</td> <td>5.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※理科は H25, H26, H28 は県調査</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次期学習指導要領では、小学校5年からの外国語（英語）の教科化が盛り込まれ、小学校3年から外国語活動が前倒しされる。平成30年度からの先行実施に向けて、授業時数の確保、教育課程、評価方法、指導体制、学習指導案等の検討が必要である。 ・ 次期学習指導要領では、少子高齢化の進展や情報化、グローバル化など急激な社会的変化の中でも、未来の担い手となるために必要な学力を確実に身に付けることのできるよう、これまでの「何を学ぶか」といった知識の習得と同時に、「どのように学ぶか」といった学習過程のあり方、その成果として「何ができるようになるか」といった観点からの改定が予定されている。改定内容の全体像をしっかりと見極めた上で、具体的な取組を検討する必要がある。 			学年・科目	かほく市				学年・科目	石川県				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	小学6年生	国語A（知識）	0.9	▲0.1	3.1	0.6	中学3年生	国語A（知識）	0.9	1.7	1.2	0.7	国語B（活用）	0.8	▲0.4	0.9	1.3	国語B（活用）	1.8	5.5	2.0	1.5	算数A（知識）	1.0	▲1.5	2.9	1.6	数学A（知識）	2.0	3.3	1.0	2.4	算数B（活用）	1.0	▲4.2	2.3	2.1	数学B（活用）	1.7	3.0	1.0	2.8	理科※（国・県）	▲0.3	▲0.3	1.6	3.5	理科※（国・県）	4.8	1.2	2.2	5.0
学年・科目	かほく市				学年・科目	石川県																																																																		
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度																																																															
小学6年生	国語A（知識）	0.9	▲0.1	3.1	0.6	中学3年生	国語A（知識）	0.9	1.7	1.2	0.7																																																													
	国語B（活用）	0.8	▲0.4	0.9	1.3		国語B（活用）	1.8	5.5	2.0	1.5																																																													
	算数A（知識）	1.0	▲1.5	2.9	1.6		数学A（知識）	2.0	3.3	1.0	2.4																																																													
	算数B（活用）	1.0	▲4.2	2.3	2.1		数学B（活用）	1.7	3.0	1.0	2.8																																																													
	理科※（国・県）	▲0.3	▲0.3	1.6	3.5		理科※（国・県）	4.8	1.2	2.2	5.0																																																													

② 家庭学習の定着と充実		達成状況				
担当課	学校教育課	B				
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 例年伸び悩んでいた学習状況調査で「自分で計画を立てて勉強している」と回答した割合が、小学校、中学校ともわずかながら県平均を上回り伸びが見られた。これは、市学力向上部会（市学校教育研究会組織）が中心となり、各学校が家庭学習の課題や時間について児童生徒が学校にいる間に見通しを持たせたことや「家庭学習カード」を活用することで、保護者に家庭学習への理解や協力を得ることに努めた成果である。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習は基礎学力の定着につながることから、引き続き、家庭学習の重要性を認識してもらえよう、家庭に協力を求める取組について工夫する必要がある。 						
数値目標項目		H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査で「自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合	小学校	59.0%	64.3%	64.2%	69.5	75%
	中学校	42.5%	57.8%	52.3%	54.5	75%

③ 学習指導法の工夫改善		達成状況				
担当課	学校教育課	B				
<p><取組内容・成果></p> <p>〔いしかわ道徳教育推進事業（県）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 高松小学校 —研究主題— 「つながりを大切にして、主体的に生きる子の育成」 * 児童が主体的に道徳性を育むため、道徳における工夫・改善（導入や課題、発問等）が進んだ。また、コミュニティ・スクールと連携することで、地域人材や地域教材の活用が進み、児童の考えがより深まり、実践意欲の向上に繋がった。 公開研究発表会 期日 平成 28 年 11 月 25 日 <p>〔学びの組織的実践推進事業（県）〕 3年事業の2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇ノ気中学校(拠点校)、河北台中学校(連携校) —研究主題— 「意欲を持って主体的に学習に取り組む生徒の育成 ～ 組織的な学力向上システムの実践を通して ～」 * 昨年度作成した学力向上プランとその実施・検証行程を明確に示した「ロードマップ」を見直し、各チームと各教科の取組を細分化し、共通理解・共通実践の徹底を図り、教科部会の充実に繋がった。 公開研究発表会 期日 平成 28 年 11 月 29 日 <p>〔能動的学習推進事業（県）〕 3年事業の2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> 高松中学校 —研究主題— 「自ら考え 豊かに表現する生徒の育成 ～伝え合う力を高める授業づくりを通して～」 * アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善の視点により、3ステップ（①予想→②協働→③振り返りと課題発見）を指導案に位置づけ、それを意識した授業を展開することができた。 公開研究発表会 期日 平成 29 年 2 月 17 日 						

〔学校教育研究事業（市）〕

・大海小学校

－主 題－

「自ら考え、学び合う子をめざして」

- * 学校ぐるみで実践研究を推進し、一人ひとりの子どもたちの確かな学力の向上を実現するため、子どもたち自らが考える課題の設定、手立てを講じ、主体的に学び合いを進め、考えの変容や深まりを感じることができる児童を育てることができた。

・河北台中学校

－主 題－

「自ら考え、学び合う生徒の育成 ～話し合い、まとめる活動を通して～」

- * 教職員の研修を深め、校内研究を推進することで、学校教育の振興及び生徒の学力向上を図ることができた。

公開研究発表会 期日 平成 28 年 10 月 4 日

スーパーバイザー 国語教育総合情報研究所 所長

福井大学教育地域科学部 准教授 松友 一雄 氏

平成 28 年度は、上記の 5 校が県指定研究・市指定研究を通して、学習指導方法の工夫改善や家庭・地域と連携した道徳教育の推進を図ることができた。

<課題>

- ・学力向上の成果を上げるための市指定研究のあり方について、抜本的に検討する必要がある。
- ・金沢教育事務所の指導主事を要請、県教育センターの校内サポート事業を活用するなど、指導主事から直接指導を受け、校内研究を通して、授業力の向上を図る必要がある。
- ・次期学習指導要領における改定内容について、教職員の意識を高めるとともに、多くの授業実践例や情報を収集する必要がある。

④ 教師の資質の向上と組織的な学校経営		達成状況
担 当 課	学校教育課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none">・組織的な学校運営及び学校づくりへの積極的参画に必要な資質の向上を図るとともに、教育の今日的課題に対応できる情報収集力と企画力を有する人材を育成する目的で、教務主任及び校長の推薦する者を対象として、市教職員ミドルリーダー研修会を実施し、トップリーダーを目指す人材育成に取り組むことができた。* 第 1 回 平成 28 年 7 月 29 日（金）<ol style="list-style-type: none">① 校長の学校経営方針を徹底させるにはどうすればよいか。② 人材育成をどのように進めていけばよいか。* 第 2 回 平成 28 年 8 月 24 日（水）<ol style="list-style-type: none">① 組織的な学力向上の取組をどのように進めればよいか。② コミュニティ・スクールをどのように推進させていけばよいか。* 第 3 回 平成 28 年 9 月 7 日（水）<p>講話 「ミドルリーダーに期待すること」 講師 金沢教育事務所長 高島 伸成 氏</p> <p>平成 28 年度は 3 回開催 各小中学校から 13 人参加</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・校内 OJT を通して主任層や若手を計画的に育成する継続実践が望まれる。校内 OJT 委員会が、各学校組織に位置づけられているものの、その機能化に向けては検討を重ねる必要がある。・今日的課題研修等に積極的に参加し、研修会で得られた情報を還流し、授業力や指導力を継続的に高めていこうとする学校の組織体制を強化しなければならない。・様々な教育機関と連携し、教職員の指導力や人間力を高める実践を通して、人材育成に努めなければならない。		

⑤ 教育センターの研修事業		達成状況
担当課	学校教育課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質向上を図るために策定した「かほく市教職員研修基本計画」に従って、計画的に研修会が実施できた。 <ul style="list-style-type: none"> * 基本研修（教職員全体研修会、初任者教職員研修会） 3回 かほく市の教育の現状と課題を理解することを目的とした教職員全体研修のほか、若手教職員学級経営力、道徳授業力の向上を図る初任者等研修会を開催した。 * 指定研修（教務主任研修会ほか11研修会）22回 前期学校訪問を終えての課題に対応するための教務主任研修のほか、研究主任研修、生徒指導主事研修、外国語教育担当者研修、ICT活用研修、道徳教育推進教師、特別支援教育支援員、心の教室相談員、学校司書、学務員の資質向上を図るために研修会を開催した。それぞれの業務の質を高めることができ、学校教育の向上に寄与することができた。 * 重点研修（学力向上教科別研修会、不登校問題対応研修会ほか2研修会） 10回 学力の向上を図るために、「学力向上教科別研修会」等を実施した。金沢教育事務所の指導主事を招聘して、教科ごとにきめ細かな指導助言を受けた。 * 教育講演会 1回 <ul style="list-style-type: none"> * 演題「今教育に求められているもの～大学・高校野球の審判の経験から～」 講師 清水法律事務所 清水幹裕 氏（弁護士） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市独自の研修のほか、県教育委員会の研修など数多くあり、教職員の負担等を考慮した研修内容の見直しが必要である。また次期学習指導要領を見据え、外国語（英語）教育の取組に向けた教職員研修の充実に努める必要がある。 ・不登校児童生徒の増加抑制・未然防止に向けた教職員・特別教育支援員等の研修内容の充実に努める必要がある。 		

基本的方向 1－(2) 豊かな人間性の育成

① 道徳教育の充実		達成状況
担当課	学校教育課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師を対象とした研修会を開催し、「タイムリーなことばかり教材にするのではなく、将来を見据えた年間指導計画に基づく取組」や「考える道徳、議論する道徳」の必要性について共通理解を図り、各校での道徳教育を推進した。 ・共通道徳担当教師を対象とし、小学校では「西田先生の生涯を中心に学び、その人となりから学習する」、中学校では「西田先生の生涯からその哲学までを学び、自己を振り返る学習をする」という共通道徳のねらいについての研修会を開催し、郷土の先人の努力を知り、努力しようとする心構えを育むことができた。また、西田幾多郎記念哲学館と連携した共通道徳の実践に努め、小学館学習まんが「西田幾多郎」や「いしかわ版道徳教材」を効果的に活用することができた。 ・道徳の授業を保護者や地域の方々に公開するため、「道徳授業年間公開計画」を作成し、計画的な授業公開に努めることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの「道徳の時間」から、小学校は平成 30 年度から、中学校は 31 年度から「特別の教科道徳」（道徳科）となる。これまでの道徳での蓄積や知恵を捉え直しつつ、継承し、活用しながら、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習など質の高い多様な指導方法に関する実践や研究を深める必要がある。 ・道徳性を育むために保護者や地域の人々をゲストティーチャーとして招き、子供たちと一緒に道徳的な課題に真正面から向き合うなど、家庭や地域社会との相互連携を図る必要がある。 ・小中学校が連携して 9 年間で豊かな心を育成するため、道徳掲示の工夫など、多くの共通実践が望まれる。 		

② 特別支援教育の充実		達成状況
担当課	学校教育課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別に配慮の必要な児童生徒にきめ細かに対応するために、学校の必要に応じて特別支援教育支援員をこれまでの 10 人から 12 人に増員配置し、学習活動の円滑な運営を支援した。 <ul style="list-style-type: none"> * 高松小学校 3人 * 七塚小学校 1人 * 外日角小学校 3人 * 宇ノ気小学校 3人 * 金津小学校 1人 * 高松中学校 1人 ・小学校の通常学級に在籍している児童の中で、言語発達遅滞を中心として何らかの個別支援を必要としている児童のために、通級指導教室「ことばの教室」（2 学級）を宇ノ気小学校に設置して専門的な支援をした。 ・個別支援が適切に行えるように、特別支援教育コーディネーターを中心とし、かほく市共通の個別支援シートの活用を浸透させた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども総合センター（子育て支援課）、子ども発達相談支援センター（健康福祉課）、学校教育課が連携し、幼稚園や保育園から小学校への引き継ぎ、小学校から中学校への引き継ぎ状況を確認しながら、情報の共有、今後の対応を検討する必要がある。 ・総合的に特別支援教育全般のあり方を協議する「特別支援教育推進委員会」において、特別支援教育の充実を図るための取組の方向性を協議する必要がある。 ・これまで以上に、特別支援教育支援員と教職員がコミュニケーション深めることにより、機動的で効果的な支援ができる体制づくりに努める必要がある。 		

③ いじめ、不登校や問題行動の防止

達成状況

担当課

学校教育課

B

<取組内容・成果>

- ・平成 27 年度から教育委員会として小中学校全児童生徒の心の変化を観察するため、Q U 調査を年 2 回実施し、その結果を活用し、「学力の向上」、「いじめや不登校の改善」、「学校生活の意欲が低下している子どもの発見」などに取り組み、問題行動への初期段階での対応に役立てている。
- ・いじめアンケート実施後、各校設置の「いじめ問題対策チーム」が中心となり迅速な対応に努めるとともに、いじめの未然防止についても各校において積極的な取組により、意識が高まってきた。
- ・各校のいじめ防止に対する取組が、保護者に伝わっているかどうかを「かほく市共通アンケート」で調査し、数値の低い学校に対して、引き続き指導を行い改善に努めた。

【保護者アンケート】

「学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってきますか。」

- ・数値目標としている「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」について、全国調査（4 月）後、7 月と 12 月に追跡調査を行い、各校のいじめ防止に対する指導に効果的に活用することができた。

◇かほく市における不登校及び不登校傾向の児童生徒の推移

(人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成 24 年度	26	27	31	31	—	32	36	34	36	38	38	38
平成 25 年度	31	31	33	33	—	36	35	36	36	35	37	38
平成 26 年度	28	33	38	40	—	43	46	47	48	48	50	50
平成 27 年度	25	27	31	32	—	38	43	45	46	47	46	45
平成 28 年度	25	31	35	37	—	39	42	45	46	46	48	48

<課題>

- ・各校でいじめの認知、重大事案にならないよう早期対応、担任だけではなく複数の目でチェックされているかなど実効性のあるものとなっているのか、常に検証を重ねる必要がある。
- ・各学校で設置している「いじめ問題対策チーム」が機動的なものとなるような対応の在り方について、引き続き関係機関との連携を図っていくことが必要である。
- ・「かほく市いじめ問題対策連絡協議会」を通じて、法務局をはじめとする関係機関や各種団体と連携を密にし、今後も、引き続きいじめのない子ども社会の実現に取り組む必要がある。
- ・学校だよりや生徒指導だより、ホームページ等を通した「いじめ防止に対する取組」の積極的な啓発活動に努める必要がある。（かほく市共通アンケートで実態調査を継続）
- ・いじめ対応アドバイザーやスクールカウンセラーがチーム学校の一員として組織的に動ける体制づくりが必要である。

数値目標項目		H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査で「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒の割合	小学校	91.7%	96.6%	97.1%	98.2%	100%
	中学校	94.5%	96.4%	97.3%	95.7%	100%

④ キャリア教育の推進		達成状況				
担当課	学校教育課	B				
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営戦略プラン事業や総合的な学習の時間を中心とした実践の中で、様々な職業人から勤労の意味や生き方について話を聞き、今の学びが将来に生きることを深く考えることができた。 ・すべての中学校で、夏季休業中に「職場体験活動」を行い、勤労観、職業観の育成に努めることができた。 ・地域を知る活動や、家族・身近な人の仕事調べ、社会見学や工場見学を通じて働く人々の姿に触れる体験的活動に積極的に取り組むことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年において、学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた割合が、全国平均、県平均を下回っており、地域の人材の力を借りて、生き方や職業について学ぶキャリア教育を計画的に充実させる必要がある。 ・将来の夢や目標を持つことは学びの基盤であることを継続的に指導するとともに、今の学びが将来に生きることを家庭と連携を図りながら取り組んでいく必要がある。 ・小中学校で学年に応じたキャリア教育を行っているが、学びの継続という点で教員の意識が薄い。キャリア教育のねらいや目標を理解し、小中連携の取組に位置づける必要がある。 ・地元企業と連携し、様々な体験活動や企業見学を通じたキャリア教育の企画開発が必要である。（コンピュータ分野・スポーツ分野） 						
数値目標項目		H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査で「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合	小学校	90.5%	82.8%	82.0%	80.3%	95%
	中学校	70.2%	71.8%	75.2%	74.6%	80%

⑤ コミュニケーション能力の育成		達成状況				
担当課	学校教育課	B				
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつを基本としたコミュニケーションの大切さについては、前年度に引き続き、全校において創意工夫を凝らした取組が展開された。 ・コミュニケーション能力の育成については、「学びの12か条+(プラス)」に基づき、実践活動が継続的に行われている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの次代を生きていく子どもたちに、本当に必要なコミュニケーション能力は、かつては家庭や地域の中で自然に身に付けられていたが、社会環境の変化などその習得が難しくなっている。各教科等において、互いに意見を聞き合い、言い合い、学び合い、子どもたちが自己肯定感を味わうことで、自信をもつような授業手法の展開など研究する必要がある。 ・今後も中期的・長期的観点から、子どもたちの発達の段階に応じてコミュニケーション能力を高めるための方策や態勢について、検討を進めていく必要がある。 						

⑥ 幼稚園、保育園と小学校、中学校の連携		達成状況
担当課	学校教育課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園と小学校の連携においては、前年同様、各校区単位で「幼保小連携事業連絡会」が主体となって、交流会や体験入学等の事業を実施し、相互の交流・連携を通して、園児・児童の健全育成を図った。 ・小中学校の連携については、中学校区単位で公開授業や分科会、授業・部活動体験など実施し、児童生徒や指導者の交流・情報交換を通して、小中連携の重要性を共有できた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携のための共通認識や共通実践において、さらなる取組強化が必要である。 ・発達障害児や気になる児童等の情報について、幼稚園や保育園から小学校への引き継ぎ、小学校から中学校への引き継ぎなど、情報共有や支援方針などについて理解を深め、円滑な接続に向けて連携を強化する必要がある。 ・次期学習指導要領の改訂を見据え、新たに教科化される外国語を含め、小学校から中学校への円滑な接続を意識した情報の共有、指導方法の検討など、連携を強化する必要がある。 		

基本的方向 1－(3) 児童生徒の体力増進と運動能力の向上

① 学校における運動機会の充実		達成状況 B
担当課	学校教育課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川県内の小学校が参加し、インターネットを通じて、自分のクラスの順位を競い合う「スポチャレいしかわ」に全小学校が登録し、積極的な実践を積み重ねて好成績を収めた。 <ul style="list-style-type: none"> 【スポチャレ・40m「ベスト部門」】 <ul style="list-style-type: none"> * 1年の部 3位 …… 大海小学校 1年1組 * 6年の部 6位 …… 宇ノ気小学校 6年3組 【スポチャレ・40m「チャレンジ部門」】 <ul style="list-style-type: none"> * 6年の部 5位 …… 七塚小学校 6年2組 【スポチャレ・8の字「ベスト部門」】 <ul style="list-style-type: none"> * 6年の部 5位 …… 宇ノ気小学校 6年3組 【スポチャレ・長なわ「ベスト部門」】 <ul style="list-style-type: none"> * 4年の部 6位 …… 外日角小学校 4年1組 * 5年の部 6位 …… 外日角小学校 5年1組 * 6年の部 4位 …… 外日角小学校 6年2組 ・第11回いしかわっ子駅伝交流大会に全小学校が出場し、県内小学校男子92チーム、女子98チームが出場し、男子では高松小学校が優勝、宇ノ気小学校が準優勝した。また、ほとんどの学校で前年度と比較した中で、順位、タイムとも上昇した。 <ul style="list-style-type: none"> 【駅伝男子の部】 <ul style="list-style-type: none"> * 優勝 高松小学校 26分20秒 * 準優勝 宇ノ気小学校 26分40秒 * 第17位 外日角小学校 28分23秒 * 第26位 金津小学校 28分44秒 * 第36位 七塚小学校 29分13秒 * 第58位 大海小学校 30分12秒 【駅伝女子の部】 <ul style="list-style-type: none"> * 第3位 高松小学校 28分55秒 * 第6位 宇ノ気小学校 29分27秒 * 第24位 金津小学校 31分08秒 * 第26位 七塚小学校 31分18秒 * 第39位 大海小学校 31分52秒 * 第46位 外日角小学校 32分09秒 ・平成26年度から実施した市内小学校6年生を対象とした小学生体育大会（陸上6種目）を引き続き開催し、学校間の友好や競い合うことの楽しさ、それぞれの学校における団結を体験させることができた。 ・中学校部活動において、地区予選を勝ち抜き、全国中学校体育大会で優秀な成績を収めた。 （成績：入賞のみ） <ul style="list-style-type: none"> * 第46回全国中学校剣道大会 宇ノ気中学校女子剣道部 団体ベスト8 * 第38回全国中学校軟式野球大会 宇ノ気中学校野球部 優勝 ・中学校部活動の冬季トレーニングに外部指導者を招き、効果的なトレーニング方法を学ぶことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の小学校では「スポチャレいしかわ」の取組期間が1ヶ月程度と短い傾向にあり、今後は、体力向上の観点から、年間を通じた継続的な取組となるよう指導する必要がある。 ・体力の向上への取組は、学校体育だけで成果が上がるものではなく、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブなどと連携しながら、保護者や地域の方々とともに取り組む必要がある 		

② 健康づくり、体力向上をめざす教育の充実

達成状況

担当課

学校教育課・生涯学習課

B

<取組内容・成果>

- ・前年度の体力・運動能力調査の結果を基に各校での現状・課題を把握し、「体力アップ1校1プラン」において、項目を絞った取組をしている学校は成果が上がっているが、調査と同時に行われた運動習慣等調査によると、積極的に運動する子とそうでない子の二極化が進んでいる。
- ・市内における児童生徒の体力・運動能力調査（小学校4年～6年・中学校1年～3年）結果は、各校、各学年でばらつきがある。小学校の調査結果では、前年度と比較し、県平均を下回る項目は若干減少したが、男子に県平均を下回る項目が多い。中学校の調査結果については、県平均を下回った項目が17項目あり、前年度の10項目より大きく増えた。
- ・養護教諭や栄養教諭と連携を図りながら保健・食育指導を行うことができた。

平成28年度体力・運動能力調査結果

県平均を下回っている項目(▲)

小学校	4年男子		4年女子		5年男子		5年女子		6年男子		6年女子	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28
握力									▲			
上体起こし	▲	▲			▲	▲			▲	▲	▲	
長座体前屈		▲			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
反復横とび												
シャトルラン									▲		▲	
50m走												
立ち幅とび					▲	▲			▲	▲	▲	▲
ボール投げ	▲	▲	▲		▲	▲			▲	▲	▲	

中学校	1年男子		1年女子		2年男子		2年女子		3年男子		3年女子	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28
握力								▲				▲
上体起こし												
長座体前屈	▲	▲				▲			▲			
反復横とび	▲	▲	▲	▲		▲	▲	▲		▲		▲
持久走	▲							▲				
シャトルラン												
50m走	▲							▲	▲			
立ち幅とび		▲	▲	▲		▲	▲	▲				▲
ボール投げ												

【小学6年男子】

	市平均	県平均	比較
握力(kg)	20.65	20.17	0.48
上体起こし(回)	20.06	22.62	▲0.56
長座体前屈(cm)	35.29	36.86	▲1.57
反復横とび(点)	50.25	48.10	2.15
シャトルラン(回)	68.88	65.88	3.00
50m走(秒)	8.80	8.86	0.06
立ち幅とび(cm)	164.72	165.86	▲1.14
ボール投げ(m)	26.42	26.91	▲0.49

【小学6年女子】

	市平均	県平均	比較
握力(kg)	21.09	19.77	1.32
上体起こし(回)	21.28	20.56	0.72
長座体前屈(cm)	39.97	41.16	▲1.19
反復横とび(点)	47.87	45.21	2.66
シャトルラン(回)	55.89	52.53	3.36
50m走(秒)	8.94	9.15	0.21
立ち幅とび(cm)	156.96	158.10	▲1.14
ボール投げ(m)	16.91	16.84	0.07

【中学3年男子】

	市平均	県平均	比較
握力(kg)	35.44	34.82	0.62
上体起こし(回)	33.35	30.18	3.17
長座体前屈(cm)	49.94	48.49	1.45
反復横とび(点)	55.94	56.32	▲0.38
持久走(秒)	352.82	373.56	20.74
シャトルラン(回)	107.97	96.67	11.30
50m走(秒)	7.49	7.57	0.08
立ち幅とび(cm)	215.82	215.32	0.50
ボール投げ(m)	26.91	24.54	2.37

【中学3年女子】

	市平均	県平均	比較
握力(kg)	25.51	25.57	▲0.06
上体起こし(回)	27.04	24.62	2.42
長座体前屈(cm)	52.56	48.91	3.65
反復横とび(点)	47.39	48.36	▲0.97
持久走(秒)	278.55	290.13	11.58
シャトルラン(回)	63.94	60.33	3.61
50m走(秒)	8.46	8.72	0.26
立ち幅とび(cm)	173.23	176.00	▲2.77
ボール投げ(m)	15.03	14.33	0.70

数値目標項目		H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
体力テストの5段階評価で、上位2ランク(総合評価A、B)の割合	小学校	55.4%	58.2%	55.7%	60.1%	60%
	中学校	69.3%	61.7%	60.5%	58.2%	70%

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」運動を継続し、家庭における児童の生活リズムの向上を図った。
 - * 「げんきあっぷカード」を市内小学校に配付し、児童の生活リズムチェックシートとして活用してもらった。
 - * 「早寝・早起き・朝ごはん」啓発のぼり旗を夏休み期間中の市内ラジオ体操会場に掲示した。
- ・市内3地区（高松、七塚、宇ノ気）におけるラジオ体操指導者講習会をスポーツ推進委員の指導のもと開催した。各小学校の協力により、5・6年生児童と教員が参加した。ラジオ体操への参加を促し、児童の夏休み期間中の早起きと健康的生活の維持、生活リズムの向上につなげた。

ラジオ体操指導者講習会開催状況（参加者数は概数）

- * 平成28年7月4日（月） 高松小学校体育館 19：30～20：30
160人（子ども100人、一般60人）
- * 平成28年7月5日（火） 河北台健民体育館 19：30～20：30
140人（子ども100人、一般40人）
- * 平成28年7月6日（水） 宇ノ気小学校体育館 19：30～20：30
160人（子ども120人、一般40人）

<課題>

- ・体力・運動能力の結果については、小学校、中学校の各学年とも7割の種目が県平均を上回っており、比較的良好な状況にある。しかしながら、学校間の較差が大きく、ここ数年の課題となっており、年間を通してこの較差を解消する手立てを講ずる具体的な取組が必要である。
- ・養護教諭や栄養教諭と連携を図りながら保健・食育指導を行っているが、さらに充実したカリキュラムを展開し拡充を図る必要がある。
- ・児童の適切な生活リズム保持のため、引き続き「早寝・早起き・朝ごはん」運動を継続する。

③ 安全でおいしい給食の提供		達成状況 A
担当課	学校教育課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスを大切にし、季節や旬、イベント等を捉えた興味深い献立を年間通じて企画し提供した。また、旬の地場産物や地元産品を素材にした献立も年間通じて行った。 ・継続した食育の一環として、稲作体験、かぼっくりの定植や収穫、紋平柿の収穫や脱渋などの農業体験を行い、生産者から生育に関する説明を受けるなどの交流会も実施した。また、米飯給食については、差額補填によって瀬戸町及び鉢伏産コシヒカリの一等米を提供した。 ・食物アレルギーを持つ児童生徒は増加傾向にあり、十分な配慮を行うため、第1・第2学校給食センターは、保護者や主治医、学校医とも連携を図り安全で安心できる学校給食を提供した。 <ul style="list-style-type: none"> －アレルギー対応－ *小学生 36人 *中学生 11人 ・昨年に引き続き、学校司書とのコラボレーションで絵本に出てくる料理を学校給食として提供し、学校給食に対する関心をさらに高めることができた。また、給食時には読み聞かせも行った。 ・平成25年度から学校給食センターの長寿命化計画に基づき施設の改修を実施し、平成28年度は第2給食センターにおいて、屋上防水、外壁・軒天改修、会議室内部の改修を行った。 ・「学校給食における食物アレルギー等への対応について」の共通理解ができる手引書（アレルギー対応マニュアル）を一部修正し、アレルギー疾患の児童・生徒に対して、具体的な対応ができるように取り組んだ。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携を密にして、食育の大切さをさらに啓発する必要がある。 ・学校給食では安全な給食を提供することが最も重要であり、その実践には食材の搬入から調理、各学校への配送、返却された食器や食缶の洗浄及び保管に至るまでの全過程において衛生管理に細心の注意を払う必要があり、各給食センター調理員の適正な人員、配置を検討する必要がある。 ・アレルギーを持つ児童生徒の保護者に対して、予定献立における成分等のアレルゲン確認を手作業で行い、保護者と確認を取っているが、誤集計等を防ぐため、システム化等によるアレルゲン確認などの対応が必要である。 		

基本的方向 2 - (1) 家庭教育活動の充実

② 家庭教育に関する学習機会の拡充		達成状況
担当課	生涯学習課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かほく市民大学校「家庭教育講座（2回コース）」を開催し、保護者や教職員に対して、学びの機会を提供した。 <ul style="list-style-type: none"> ①傾聴スキル～聴く力を身に付けてコミュニケーションUP～ 17人参加 ②子どもが自分で伸びる接し方～親子トレーニング～ 10人参加 ・「早寝・早起き・朝ごはん」運動を継続し、生活リズムの大切さを啓発した。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> *「げんきあっぷカード」を市内小学校の児童に配付し、生活リズムチェックシートとして活用してもらった。生活リズムの大切さについて意識させ、家庭における生活リズムの向上を図る機会とした。 *「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発のぼり旗を夏休み期間中の市内ラジオ体操会場に掲示した。 *七塚小学校が平成28年度優れた「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの機会をより効果的に活かすため、講座等の開催には学校PTAとの連携など、家庭に対する効果的な働きかけの工夫が必要である。 ・家庭教育や子育てに係る指針の類として、「かほく市家族の愛言葉」を整え、具体的な活用方針を取りまとめ、市PTA連合会や各学校PTAなどを通じて保護者や市民に広く周知し、家庭教育の充実に資する取組につなげることが必要である。 		

③ 体験活動によるコミュニケーションの促進		達成状況																														
担当課	生涯学習課	A																														
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かほく市民大学校の講座内容の充実を図るため、親子体験コースを設け、小学生とその保護者を対象とした教室を開催した。親子のコミュニケーションを促し、絆を深めるためのふれあいや対話、そして子ども自身の学びの機会とした。 ・親子体験コースのニーズが高かったことから、冬季期間も新たに教室を開催した。 ・内容によっては、地元企業や市内在住の学校教諭の支援、協力によって実施した教室もある。 <ul style="list-style-type: none"> *市民大学校親子体験コース・親子教室を開催（夏休み期間・冬季期間） <ul style="list-style-type: none"> （夏休み期間）天体望遠鏡作り教室、キャンドル作り教室、アイシングクッキー教室、皮のプレスレッド教室、トンボ玉作り教室、ロボット教室 （冬季期間）プログラミング教室、科学教室（テーマ：熱） *かほく市子ども文化教室（年間活動）を開催 <ul style="list-style-type: none"> 子ども煎茶教室、子どもお箏教室、子どもパステルアート教室 *かほく市星の会との連携 <ul style="list-style-type: none"> 七塚生涯学習センター天体観測室にて天体観望会（年間活動）を実施した。 8月には、市内外から誰でも参加できる「かほく市星空のつどい」を開催し、太陽観測や音楽イベント、天体観望会を実施した。 <p>※（参考）各教室の開催回数、参加数/定員 など</p> <table border="0"> <tr> <td>天体望遠鏡づくり教室</td> <td>29/30組</td> <td>キャンドル作り教室</td> <td>19/20組</td> <td>アイシングクッキー教室</td> <td>10/10組</td> </tr> <tr> <td>皮のプレスレッド教室</td> <td>14/15組</td> <td>トンボ玉教室</td> <td>7/10組</td> <td>ロボット教室</td> <td>11/12組</td> </tr> <tr> <td>プログラミング教室</td> <td>18/20組</td> <td>科学教室</td> <td>12/20組</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>子どもパステルアート教室</td> <td>11回 11人</td> <td>子どもお箏教室</td> <td>32回 8人</td> <td>子ども煎茶教室</td> <td>12回 5人</td> </tr> <tr> <td>かほく市星空のつどい</td> <td>70人</td> <td>天体観望会</td> <td>15回</td> <td>平均</td> <td>30人/回</td> </tr> </table> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人気の高い教室を中心に市民大学校「親子体験コース」の充実を進める必要がある。 ・地元企業や各種団体と連携した教室を推進していく必要がある。 			天体望遠鏡づくり教室	29/30組	キャンドル作り教室	19/20組	アイシングクッキー教室	10/10組	皮のプレスレッド教室	14/15組	トンボ玉教室	7/10組	ロボット教室	11/12組	プログラミング教室	18/20組	科学教室	12/20組			子どもパステルアート教室	11回 11人	子どもお箏教室	32回 8人	子ども煎茶教室	12回 5人	かほく市星空のつどい	70人	天体観望会	15回	平均	30人/回
天体望遠鏡づくり教室	29/30組	キャンドル作り教室	19/20組	アイシングクッキー教室	10/10組																											
皮のプレスレッド教室	14/15組	トンボ玉教室	7/10組	ロボット教室	11/12組																											
プログラミング教室	18/20組	科学教室	12/20組																													
子どもパステルアート教室	11回 11人	子どもお箏教室	32回 8人	子ども煎茶教室	12回 5人																											
かほく市星空のつどい	70人	天体観望会	15回	平均	30人/回																											

基本的方向 2 - (2) 人材の育成と地域活動の活性化

① 地域づくり人材の育成		達成状況 B
担当課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校と地域が関わるコミュニティ・スクールの取組を充実させるため、学校コーディネーターを中心とした人材の資質向上を図る研修会を開催した。研修には、地域づくりに先進的に取り組んでいる活動先の視察や地域づくりについて考える内容を盛り込んだ。 回数：年間 13 回（4・5 月／月 2 回、8 月を除く 6 月～3 月／月 1 回）及び視察 内容：地域づくりコーディネーターのマインドとスキルを学ぶ 地域づくりのネットワークの構築方法を学ぶ ほか <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの地域人材が、「コミュニティ・スクール」の運営に関わってもらえるような働きかけを進める必要がある。 市民に対して、地域の活性化について考え、自分自身が地域を担う一人であるという意識を高める機会を用意する必要がある。 		

② 地域活動の支援体制の充実		達成状況 B
担当課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活動補助金の交付 まちづくりに貢献する自主的かつ主体的な事業を実施する市民団体等に対して「かほく市地域活動補助金」を引き続き交付した。 交付実績：2 団体 ① 事業名：若緑発「どじょうまつり」 ② 事業名：しだれ桜後継育樹事業 公民館長連絡会の開催 高松公民館および七塚・宇ノ気の地区公民館を中心とする社会教育活動支援のため、年 3 回の館長連絡会を開催し、市民交流大会の開催、地域づくり補助金の交付などを行なった。 社会教育活動連絡員の選任 高松公民館（対象区域：高松中学校区全域）と区域内の区町会を結ぶ連携人員として、引き続き「社会教育活動連絡員」を選任した。高松地区の社会教育活動連絡員と七塚・宇ノ気の地区公民館長との協力により、市民交流大会を開催した。 第 3 回市民交流大会（ベタンク大会）の開催 多世代交流を含むかほく市民の交流と、地区公民館や町会・区としての地域間交流を図るとともに、かほく市民としての連帯感を醸成する大会として実施した。 参加チーム：48 チーム（計 258 人） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 社会教育の重要性が改めて叫ばれている昨今、公民館長等の知識や能力の向上が求められる。 高松地区「社会教育活動連絡員」体制を活かした高松公民館事業の展開を検討する必要がある。 市民交流大会への参加については、より幅広い世代（特に青少年層）の参加を促進する。 地域活動補助金については、交付実績が初年度（平成 25 年度）以降、5 件→3 件→2 件→2 件と減少していること、また、平成 27 年度から新たに「文化活動支援事業補助金（県 1/2、市 1/4）」をスタートしたことも踏まえ、当該補助金については終了時期を検討すべき状況となっている。 		

③ 情報の共有化とネットワークづくり		達成状況 B
担 当 課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、不審者情報や熊などの危険動物の目撃情報など、いち早く「いいメールかほく（学校メール）」で発信し、情報の共有化を図り、子どもたちの安全を守る体制を整えた。 ・コミュニティ・スクールのスタートにより、各種団体がその垣根を越えて連携協働できる下地が整った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種社会教育団体や地域活動団体のネットワークや情報共有は、未だ整っていない。社会教育団体の情報をまとめ、共有するとともに広く発信する方法について検討する必要がある。 		

④ 学校支援ボランティア事業の推進		達成状況 B												
担 当 課	生涯学習課													
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力の向上を図るためのコミュニティ・スクールの一つの機能として、学校支援ボランティアの活用を促進した。 ・ボランティア人材の登録・整理を行い、学校要望に応じた支援活動を進めた。 ・各校区における登下校時の見守り者が充実し、あわせて子どもたちのあいさつ運動・交通安全のマナーの取組もしっかり展開された。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援人材の登録数増加と支援分野の拡大を更に進める必要がある。 ・登録人材の情報を学校に提供しているが、学校側が求める人材要望に適合しない方がおり、要請のない人材が多く認められる。 ・学校支援ボランティアについて引き続き市民に周知し、児童・生徒の体験活動を豊かにする手立てとしていく必要がある。 														
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">数値目標項目</th> <th style="width: 10%;">H24年度 (実績値)</th> <th style="width: 10%;">H26年度 (実績値)</th> <th style="width: 10%;">H27年度 (実績値)</th> <th style="width: 10%;">H28年度 (実績値)</th> <th style="width: 10%;">H30年度 (目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校支援ボランティア登録人数</td> <td>136</td> <td>168</td> <td>136</td> <td>126</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table>			数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)	学校支援ボランティア登録人数	136	168	136	126	300
数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)									
学校支援ボランティア登録人数	136	168	136	126	300									

⑤ コミュニティ・スクール等の設置		達成状況															
担当課	生涯学習課	A															
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校運営協議会」の設置 <ul style="list-style-type: none"> 市内小中学校全9校をコミュニティ・スクールに指定し、学校運営協議会を設置した。 地域の教育力の向上、地域の活性化をめざしてコミュニティ・スクールが始動した。 年4～5回の会議を開き、学校の運営方針や評価、学校と地域の協働について話し合われた。 ・「学校コーディネーター」の配置 <ul style="list-style-type: none"> 各校に学校コーディネーター1名を配置した。 コーディネーター研修（13回）、定例連絡会（9回）を開催し、資質の向上、情報交換と共有を進めた。 学校と地域を結ぶ連絡・調整係としての活動により、現場教職員の負担軽減につながった。学校コーディネーターが、校長、教頭など教職員と連携を密にすることで、より地域との協働を図ることができた。 ・コミュニティ・スクールの取組 <ul style="list-style-type: none"> 学校規模、地域性、校風などを踏まえ、各学校特色のある取組が進められた ・シンポジウムの開催 <ul style="list-style-type: none"> 「コミュニティ・スクールシンポジウム in かほく」と題して、2月にシンポジウムを開催した。学校運営協議会委員、区長町会長、公民館長、教員など約230人が参加した。 コミュニティ・スクールに対する市民の理解促進を図った。 終了後のアンケートでは、参加者がコミュニティ・スクールの主旨について概ね理解したと解された。ただし、「単なる行事企画ではなく、地域の教育力の向上、地域の活性化を目指していることを忘れるな」という注意もいただいた。 【基調講演】 演題「コミュニティ・スクールの魅力」 講師 竹原和泉氏（NPO法人まちと学校のみらい代表理事） 【パネルディスカッション】 テーマ「かほく市コミュニティ・スクールがめざすもの」 パネリスト 細川律子氏（お話ボランティア「やまんば」代表、高松中学校運営協議会委員） 谷内正樹氏（宇ノ気中学校長） 細井将守氏（幼稚園園長、元PTA役員、宇ノ気小学校運営協議会委員） 金子葉氏（元PTA役員、外日角小学校運営協議会委員） ・コミュニティ・スクールプラン補助金の交付 <ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクールの取組を財政的に支援するため補助金を交付した。 補助対象のプランについては、平成27年度までの「知徳体の向上を目的とした学校戦略プラン」に「学校と地域との協働に関するプラン」を加えたものとした。 交付額（計4,500千円） <table border="0"> <tr> <td>○高松小：504千円</td> <td>○大海小：469千円</td> <td>○高松中：545千円</td> </tr> <tr> <td>○七塚小：513千円</td> <td>○外日角小：541千円</td> <td>○河北台中：360千円</td> </tr> <tr> <td>○宇ノ気小：618千円</td> <td>○金津小：526千円</td> <td>○宇ノ気中：424千円</td> </tr> </table> ・特徴的取組（主なもの） <table border="0"> <tr> <td>○大海小：地域の宝 学校林プロジェクト</td> <td>○高松中：高松ブドウ栽培事業</td> </tr> <tr> <td>○七塚小：木津桃プロジェクト</td> <td>○外日角小：アサギマダラプロジェクト</td> </tr> <tr> <td>○宇ノ気小：履き物揃え運動の校区展開</td> <td>○金津小：金津の森プロジェクト</td> </tr> </table> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールという制度の住民への周知をより高め、多くの地域住民がコミュニティ・スクールに関わってもらえるようさらにPRする必要がある。 ・コミュニティ・スクールを機能的、効果的に運営するため、企画、運営の柱となる学校コーディネーターや地域コーディネーターの役割を担う学校地域協働推進室員のさらなるスキルアップを進める必要がある。 ・地域住民が学校を支援することについては、もともと理解と実績があったことから、28年度はその対象を広げることができた。今後は、地域活動に学校や児童生徒が関わり、参画することが大切である。 			○高松小：504千円	○大海小：469千円	○高松中：545千円	○七塚小：513千円	○外日角小：541千円	○河北台中：360千円	○宇ノ気小：618千円	○金津小：526千円	○宇ノ気中：424千円	○大海小：地域の宝 学校林プロジェクト	○高松中：高松ブドウ栽培事業	○七塚小：木津桃プロジェクト	○外日角小：アサギマダラプロジェクト	○宇ノ気小：履き物揃え運動の校区展開	○金津小：金津の森プロジェクト
○高松小：504千円	○大海小：469千円	○高松中：545千円															
○七塚小：513千円	○外日角小：541千円	○河北台中：360千円															
○宇ノ気小：618千円	○金津小：526千円	○宇ノ気中：424千円															
○大海小：地域の宝 学校林プロジェクト	○高松中：高松ブドウ栽培事業																
○七塚小：木津桃プロジェクト	○外日角小：アサギマダラプロジェクト																
○宇ノ気小：履き物揃え運動の校区展開	○金津小：金津の森プロジェクト																

基本的方向 2 - (3) 学校から家庭、地域への働きかけ

① 学校の教育活動の発信		達成状況 B																																																
担当課	学校教育課																																																	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いいメールかほく」への登録を各校で呼びかけていることにより登録率の増加傾向は続いている。当初は、災害等危機管理面の情報発信が大半であったが、現在は、学校行事の案内や各種大会の結果等を知らせるなど、各校が工夫して活用している。 ・県教育センターを拠点として、県内公立学校を結ぶネットワーク（スクールネット）が構築されており、市内9校全てが、県教育センターが提供する統一されたデザインのホームページ作成ソフトを利用しホームページを開設している。そのことにより、誰でも簡単にホームページを更新することができ、見やすいホームページになった。 ・かほく市共通アンケート（保護者対象）において、「学校だよりや学年だより等で学校の指導方針や子どもたちの様子などがわかりやすく伝わってきますか？」の問いに、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」の両方を含めた回答は小学校では 93.8%、中学校では 89.8%となっており、概ね学校からの紙媒体での情報発信は伝わっていると判断できる。 <p><かほく市共通アンケート（保護者対象）上段：H27.12 調査 下段：H28.12 調査></p> <p>「学校だよりや学年だより等で学校の指導方針や子どもたちの様子などがわかりやすく伝わってきますか？」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>高松小</th> <th>大海小</th> <th>七塚小</th> <th>外日角小</th> <th>宇ノ気小</th> <th>金津小</th> <th>高松中</th> <th>河北台中</th> <th>宇ノ気中</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">「当てはまる」</td> <td>32.5%</td> <td>53.8%</td> <td>44.4%</td> <td>42.6%</td> <td>25.6%</td> <td>51.7%</td> <td>22.5%</td> <td>23.0%</td> <td>31.0%</td> </tr> <tr> <td>29.6%</td> <td>47.9%</td> <td>43.1%</td> <td>41.7%</td> <td>21.0%</td> <td>37.9%</td> <td>23.7%</td> <td>32.8%</td> <td>30.1%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">「どちらかといえ ば当てはまる」</td> <td>58.9%</td> <td>37.6%</td> <td>53.1%</td> <td>53.6%</td> <td>64.8%</td> <td>47.2%</td> <td>63.8%</td> <td>64.3%</td> <td>62.0%</td> </tr> <tr> <td>62.4%</td> <td>52.1%</td> <td>54.1%</td> <td>54.9%</td> <td>70.2%</td> <td>54.0%</td> <td>60.1%</td> <td>58.4%</td> <td>62.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新が遅い学校については、引き続き、こまめな更新・定期的な更新を指導していく。 ・紙媒体での情報発信はなされているものの、ホームページを効果的に活用するなど、まだまだ改善すべき点が多い。 				高松小	大海小	七塚小	外日角小	宇ノ気小	金津小	高松中	河北台中	宇ノ気中	「当てはまる」	32.5%	53.8%	44.4%	42.6%	25.6%	51.7%	22.5%	23.0%	31.0%	29.6%	47.9%	43.1%	41.7%	21.0%	37.9%	23.7%	32.8%	30.1%	「どちらかといえ ば当てはまる」	58.9%	37.6%	53.1%	53.6%	64.8%	47.2%	63.8%	64.3%	62.0%	62.4%	52.1%	54.1%	54.9%	70.2%	54.0%	60.1%	58.4%	62.9%
	高松小	大海小	七塚小	外日角小	宇ノ気小	金津小	高松中	河北台中	宇ノ気中																																									
「当てはまる」	32.5%	53.8%	44.4%	42.6%	25.6%	51.7%	22.5%	23.0%	31.0%																																									
	29.6%	47.9%	43.1%	41.7%	21.0%	37.9%	23.7%	32.8%	30.1%																																									
「どちらかといえ ば当てはまる」	58.9%	37.6%	53.1%	53.6%	64.8%	47.2%	63.8%	64.3%	62.0%																																									
	62.4%	52.1%	54.1%	54.9%	70.2%	54.0%	60.1%	58.4%	62.9%																																									

② 学校開放、学校行事への参加促進		達成状況
担当課	学校教育課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いしかわ教育ウィーク（11/1～11/7）の間、各学校で様々な取組を企画し、地域に対し学校公開を行った。その結果、地域の方に様子を知ってもらうよい機会となった。 また、運動会や文化祭にも多くの地域の方々の参加をえることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への参加は、単なる公開には止まらず、地域住民や学校が主体的に学校教育に対し、関わっていきける協力体制をさらに推進する必要がある。 		

③ 学校と連携した家庭教育の啓発		達成状況
担当課	生涯学習課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グッドマナーキャンペーン」の継続的实施 <ul style="list-style-type: none"> あいさつ励行と交通ルール指導のため、9月26日から30日までの5日間、「かほく市グッドマナーキャンペーン」を展開した。市職員のほか河北郡市教育振興会、かほく市民生児童委員協議会、かほく市社会教育委員、高松ライオンズクラブ会員など、延べ270名がキャンペーンに参加した。 また、市内各小中学校においても、教職員、児童生徒、保護者等が取り組んだ。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の推進 <ul style="list-style-type: none"> 生活リズムが崩れやすい夏休み期間中に、小学生の「早寝・早起き・朝ごはん」を推進するため、「げんきあっぷカード」を作成し、市内小学校の児童へ配付した。 （チェック項目：起床時間、就寝時間、朝ごはんの有無、家庭での手伝いの有無） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種運動の実施に際しては、学校との十分な調整を図り、効率の良い取組として継続することが大切である。 ・市PTAが推奨している「コミュニケーションウイーク事業」をさらに活かす取組が必要である。 ・保護者向けの講演会や勉強会のほか、保護者が家庭教育について考え、話し合い、気づきを得るような機会が必要である。 		

基本的方向 2 - (4) 関係機関の連携強化

① 教育相談体制の充実		達成状況
担当課	学校教育課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士等によるいじめや不登校などの教育相談を実施した。年々来所による相談が増加し、相談内容についても多様化している状況である。 <ul style="list-style-type: none"> *平成28年度 来所相談 60件、訪問相談 9件、電話相談 19件 *平成27年度 来所相談 50件、訪問相談 9件、電話相談 17件 *平成26年度 来所相談 46件、訪問相談 7件、電話相談 23件 *平成25年度 来所相談 31件、訪問相談 8件、電話相談 57件 *平成24年度 来所相談 27件、訪問相談 7件、電話相談 37件 生徒等の悩み事を受けるために、心の教室相談員3人を週3回、市内の中学校に配置し、相談者に適切な助言を行った。 スクールカウンセラー4人を配置し、市内の5小学校と3中学校の児童及び生徒の面接相談や行動観察、登校支援を行った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> どの学校にも専門的知識が求められる相談が多くなっており、引き続き、心の教室相談員、県立看護大学の臨床心理士等の活用、スクールカウンセラーの配置を図っていく。 		

② 問題を抱える子ども等の自立支援		達成状況															
担当課	学校教育課	B															
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園や保育園、小学校、中学校を巡回し、就学前の園児から児童生徒に至るまできめ細かな対応指導を行った。また一方で「成長応援ノート」を活用することによって、情報を共有し学校と家族間の意思の疎通においても支援した。 <p>ー成長応援ノート利用者ー 子ども発達相談支援センターより（H29.3.31現在）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>累計</th> <th>新規（平成28年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>*未就学児</td> <td>10人</td> <td>（3人）</td> </tr> <tr> <td>*小学生</td> <td>74人</td> <td>（6人）</td> </tr> <tr> <td>*中学生</td> <td>25人</td> <td>（0人）</td> </tr> <tr> <td>*高校生以上</td> <td>34人</td> <td>（0人）</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 教育支援センター「すまいる」には、年間を通じて最高11名の通室生が生活リズムの再構築と学習支援を受けた。 石川県立看護大学との包括的連携事業として、市内中学校及び教育支援センター「すまいる」において、看護大学の学生ボランティアが、メンタルフレンドとして児童及び生徒たちの心の支えとして学習支援を行った。 <ul style="list-style-type: none"> *平成28年度支援時間：延べ317時間 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども総合センター（子育て支援課）、子ども発達相談支援センター（健康福祉課）、学校教育課が連携し、幼稚園や保育園から小学校への引き継ぎ、小学校から中学校への引き継ぎ状況を確認しながら、情報の共有、今後の対応を検討する必要がある。 				累計	新規（平成28年度）	*未就学児	10人	（3人）	*小学生	74人	（6人）	*中学生	25人	（0人）	*高校生以上	34人	（0人）
	累計	新規（平成28年度）															
*未就学児	10人	（3人）															
*小学生	74人	（6人）															
*中学生	25人	（0人）															
*高校生以上	34人	（0人）															

④ 高等教育機関との連携		達成状況									
担当課	生涯学習課	B									
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民大学の講座メニューに「金沢大学市・町共催公開講座事業」等を活用した。 活用講座：2回 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月 日</th> <th>演 題</th> <th>講 師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9月19日(月)</td> <td>宮沢賢治作品から読み解く本当の幸とは</td> <td>立教大学准教授 大熊 玄</td> </tr> <tr> <td>10月18日(火)</td> <td>詩歌と戦争の時代－鶴彬を補助線に</td> <td>金沢大学准教授 飯島 洋</td> </tr> </tbody> </table> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民大学の講座内容については、より受講者の興味・関心を引くようなものに配慮する必要がある。 ・看護大学や金沢大学教授等を講師として活用し、より内容の深い講座を設定しながら受講者の学習意欲を高める必要がある。 			月 日	演 題	講 師	9月19日(月)	宮沢賢治作品から読み解く本当の幸とは	立教大学准教授 大熊 玄	10月18日(火)	詩歌と戦争の時代－鶴彬を補助線に	金沢大学准教授 飯島 洋
月 日	演 題	講 師									
9月19日(月)	宮沢賢治作品から読み解く本当の幸とは	立教大学准教授 大熊 玄									
10月18日(火)	詩歌と戦争の時代－鶴彬を補助線に	金沢大学准教授 飯島 洋									

⑤ 少年愛護センターとの連携		達成状況
担当課	生涯学習課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回補導活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> * 少年愛護指導員（1人）による指導巡回（月～金 15:00～17:00） * 少年愛護員（59人）による定例指導巡回（年間16回×3地区 19:30～21:00） * 「サマーフェスタ in かほく」における特別指導巡回 （7月30日(土) キャッツフェスタ会場 18:30～22:30） 少年愛護員に学校教諭やPTA役員を組み入れることにより、学校と少年愛護センターの連携強化を図った。 郡市内の少年補導員（愛護指導員）による広域補導連絡会を毎月3回開催し、連絡会を通して相互の情報交換や連携を図って広域的な活動を実施した。 ・青少年健全育成に関する啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> * 標語の募集と啓発クリアファイルの作成（新年度市内小中学校の世帯に配布） * 啓発チラシ発行（全戸配布） * 広報紙「ふれ愛」発行（全戸配布） * 各家庭に対して青少年健全育成の意識の啓発に取り組んだ。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の飲酒、喫煙、深夜はいかいといった問題行動については年々減少傾向にあるものの、近年、携帯電話やスマートフォンなどの普及に伴い、ネット被害に巻き込まれる新たな事案が増加しているため、その分析調査と対策に向けた取組が必要である。 ・引き続き学校、家庭との連携のもと、青少年と保護者への情報端末の利用に関する注意喚起や日常生活のマナー向上を働きかけていく必要がある。 <p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津幡警察署管内で市内在住の青少年が行った非行件数（補導件数・検挙件数） H28：刑法犯7件 不良行為41件 合計48件（H27 87件） 		

基本的方向 3 - (1) ともに学び合う機会の拡充

① 学習情報の発信		達成状況 B
担当課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報、チラシ、HP、いいメール、CATV、新聞などを使って、幅広い世代に対して生涯学習に関する情報を発信した。 ・市民による生涯学習成果発表の場として、渚と海の博物館の回廊部分を「市民ギャラリーうみっこ」として活用した。また、七塚生涯学習センターや高松産業文化センターにおいて、各種団体のチラシなどを掲示し情報を発信した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習情報を一括的に発信することを検討する必要がある。 		

② 学習成果を生かした社会参加の促進		達成状況 B
担当課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館を気軽に利用してもらうため、子どもたちを対象とした体験講座を開催した。 ・図書館ボランティアの方々のスキルアップや新規ボランティアの開拓のため、今年度も講座を開催した。 ・市女性協議会では、学習活動の成果の発表の場として「石川県女性県政会議」の運営補助を行った。 期 日 : 11月19日(土) 会 場 : 河北台中学校講堂 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の学びの成果が地域社会にまだ活かしきれていない。コミュニティ・スクールとしての取組や学校支援人材としての活用を広げていく必要がある。 		

③ 生涯学習フェスティバルの開催		達成状況 B
担当課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第13回生涯学習フェスティバルを開催した。 期 間 : 10月29日(土)・30日(日) 会 場 : 河北台中学校講堂、河北台健民体育館、七塚生涯学習センターなど 内 容 : 芸能発表会、各種展示会(体験コーナー)、フリーマーケット、図書館まつり生フェスクイズラリー 記念講演 : 三遊亭好楽 氏 「人生、好んで楽しもう」 笑点メンバーたちとの裏話、師匠や先輩落語家たちとのエピソードで会場を沸かせたほか、即席で落語を披露し、来場者はプロの芸に触れることができた。 ・昨年度に引き続きクイズラリーを実施した。小学生や親子を中心に、かほく市のことを知るクイズを楽しんだ。また、副賞の図書館まつり古本市の10冊無料券が好評で、図書館まつりへの来場者増加につながった。 ・展示会場における「体験コーナー」が定着し、参加者・利用者とも増加した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに文化協会に加入したグループの出演や作品出品があった反面、短歌の展示などは会員数の減少により作品数も減少した。少ない人数であっても出品の意欲が高まる支援が必要である。 		

- ・内容の見直しや工夫を重ねて市民の興味関心と来場者の満足度を上げ、リピーターの増加と新規来場者の呼び込みを促進する必要がある。
- ・平成29年度より小学校の芸能発表会への出演を廃止し、地域で活動する児童の出演を検討する。

数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
生涯学習フェスティバル 作品展示会場来場者数	6,079	5,022	5,558	6,290	7,300

④ 市民大学講座事業の展開

達成状況

担当課

生涯学習課

B

<取組内容・成果>

- ・かほく市民大学校としての講座を展開した。
 - 一般教養コース：前期11講座・後期7講座
 - 親子体験コース：8講座、男女共同参画コース：1講座、家庭教育コース：2講座
- 個の学びの意欲に応えるとともに、学びを通じた交流の輪の拡大を図った。
- 市民が自由に自主的に学べる機会として、講座を展開した。
- 学びによる豊かな人間性の育成を図った。
- ・図書館と連携した講座を展開した。(5講座)
- ・連続講座としてシリーズ化を図って講座を展開した。

H28 かほく市民大学校 講座

種 類	回 数	
一般教養コース	一般	9回
	ふるさと・歴史・文化	3回
	健康・食	5回
	多文化共生・国際交流	1回
男女共同参画コース(人権事業と連携)	1回	
家庭教育コース	2回	
親子体験コース	8回	
図書館連携講座	5回	
合 計	34回	

<課題>

- ・開催曜日、時間、場所について、受講対象者を考慮した計画の検討が必要である。
- ・今後も哲学館や図書館等との共催の講座や講演会を増やす実施する必要がある。
- ・様々な情報媒体や社会教育団体等の会合などを利用して、更にかほく市民大学校をPRする必要がある。また、講座内容によりターゲットを絞ったPRが必要であり、他の課も含めたイベントや各種団体、施設に対してPRを図りたい。
- ・単なる知識の習得ではなく、社会貢献や社会参画などにつながる内容を引き続き意識する必要がある。

数値目標項目	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
市民大学講座延べ受講者	722	683	1,317	2,000

基本的方向3-(2) 地域のコミュニティ活動の推進

① 地域住民が主体となる学習環境の整備		達成状況																											
担当課	生涯学習課	A																											
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民への学習機会の提供として、行政の取組の説明や職員の専門的知識等を生かした「出前講座」を実施した。 出前回数：計39回（H27：35回） 参加人数：延べ1,247人（H27：1,289人） <p>H28 出前講座 開催回数の多かったもの</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>講座名</th> <th>担当課</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『寸劇』あなたの身近にある消費者トラブル</td> <td>消費生活センター</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>紙芝居ー大切なおやくそくー（幼児から小学生までの金融教育）</td> <td>消費生活センター</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>親子で食育！チャレンジクッキング</td> <td>健康福祉課</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>下水道の話</td> <td>上下水道課</td> <td>3回</td> </tr> </tbody> </table> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座の認知度が上がり、町会・区、公民館、老人クラブ、女性団体等による利用が増加した。引き続き地域のニーズを配慮しながら、メニューの見直しを行う必要がある。 ・地域コミュニティの自主的学習に引き続き利用されるよう、今後も地域の連帯や融和につながる内容を盛り込んでいく。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>数値目標項目</th> <th>H24年度 (実績値)</th> <th>H26年度 (実績値)</th> <th>H27年度 (実績値)</th> <th>H28年度 (実績値)</th> <th>H30年度 (目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出前講座の受講者数</td> <td>679</td> <td>813</td> <td>1,289</td> <td>1,247</td> <td>800</td> </tr> </tbody> </table>			講座名	担当課	回数	『寸劇』あなたの身近にある消費者トラブル	消費生活センター	4回	紙芝居ー大切なおやくそくー（幼児から小学生までの金融教育）	消費生活センター	3回	親子で食育！チャレンジクッキング	健康福祉課	3回	下水道の話	上下水道課	3回	数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)	出前講座の受講者数	679	813	1,289	1,247	800
講座名	担当課	回数																											
『寸劇』あなたの身近にある消費者トラブル	消費生活センター	4回																											
紙芝居ー大切なおやくそくー（幼児から小学生までの金融教育）	消費生活センター	3回																											
親子で食育！チャレンジクッキング	健康福祉課	3回																											
下水道の話	上下水道課	3回																											
数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)																								
出前講座の受講者数	679	813	1,289	1,247	800																								

② 地域活動の拠点となる施設の整備		達成状況
担当課	生涯学習課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動（地域のコミュニティ活動）の拠点施設として、地区からの要望により、公民館施設の修繕等を進めた。 * 公民館の修繕等 <ul style="list-style-type: none"> ・大崎公民館別館屋上防水改修 ・大崎公民館空調機修繕 ・外日角公民館外構整備 ・内日角公民館体育館床塗替 ・白尾公民館駐車場照明器具取替 ・至誠が丘公民館屋根・瓦内部壁修繕 など ・公民館の修繕等については、「生涯学習施設等維持管理事業実施基準」に基づき、地元協力を財源充当しながら対応しているが、市の将来的財政負担の厳しさを考慮し、長期的に持続可能な制度への見直しを検討した。（総務課所管の集会場施設とも整合） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館の修繕等について、「生涯学習施設等維持管理事業実施基準」等の見直しを総務課と情報共有しながら引き続き検討していく必要がある。 		

③ 地域活動団体への支援体制の確立		達成状況 B
担当課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動団体への支援 主に女性会、子ども会の団体活動に対して、事務的支援を行った。 ・補助金の交付 七塚地区（7館）・宇ノ気地区（9館）の各地区の社会教育振興会（地区公民館）に補助金を交付した。 地区文化祭、運動会、花いっぱい運動など地域主体の活動が展開された。 ・地域連絡体制の整備 引き続き高松地区に社会教育活動連絡員を配置し、公民館長連絡会との連携を整え、七塚・宇ノ気・高松の全地区の参加による第3回かほく市民交流大会を実施した。 <p>—第3回かほく市民交流大会—</p> <ul style="list-style-type: none"> *日時：平成28年11月27日（日）8時30分～ *場所：河北台健民体育館 *参加：48チーム 258人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会や女性会への支援、地区公民館への支援については、高松、七塚、宇ノ気の各地区の相違と現状を踏まえて引き続き進める必要がある。 ・女性会については会員の減少が著しく、役員も固定化している。地区活動としての新たな魅力を模索していく必要に迫られている。 		

④ 町会・区との連絡体制の整備		達成状況 B
担当課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館長連絡会 七塚地区、宇ノ気地区については、地域の公民館長との連携をもって連絡体制を整えた。 ・高松地区の社会教育活動連絡員の選出 引き続き高松地区の8ブロックから社会教育活動連絡員を選出し、全町会区との連携体制を整えた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高松地区の社会教育活動連絡員については、町内会をまたがった連絡調整を担っており、結局は町内会長・区長自らが社会教育活動連絡員となる地区が増えている。 ・高松公民館と町会・区（地域）のパイプ役として、市民交流大会以外の具体的な取組を検討する必要がある。 		

基本的方向 3 - (3) 読書環境の充実と読書活動の推進

① 図書館サービスの強化		達成状況																		
担当課	生涯学習課	B																		
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レファレンスサービスの向上や読書案内の充実を図り、市民の暮らしに役立ち、知的好奇心を満たし、心豊かな生活を支援する図書館づくりに努めた。 ・コンセプトである滞在型図書館としての認知が深まり、貸出はしなくとも来館し館内で閲覧する利用者や無線LANの利用者が増加した。 ・ケーブルテレビ、広報紙、ホームページ・Eメールかほく等を通じて、図書館の資料・事業・サービスについて情報発信し、来館者が増加した。(新刊情報案内、図書館事業案内など) ・毎月23日の「市民読書の日」にあわせ、その前後の日曜日に様々なイベントを開催した。(コンサート、講演会、朗読劇、人形劇など) ・「図書館友の会」やボランティア人材との連携を図り、図書館運営協力者会議での意見を踏まえながら、市民の声を取り入れ、市民に親しまれる図書館づくりに努めた。 <p>※おはなしボランティア「やまんば」によるお話会 (年間50回、参加人数1,274人)</p> <p>※おはなしボランティア「そらいろのたね」によるお話会 (年間18回、参加人数252人)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き広報紙等を通して広く周知する必要がある。 ・「市民読書の日」事業の内容の見直しや親子対象事業の工夫などにより、引き続き来館者の増加を図る必要がある。 ・コンセプトである滞在型図書館としての利用者が増えているが、貸出人数については減少傾向にあり、蔵書構成や選書について検討が必要と思われる。 																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>数値目標項目</th> <th>H24年度 (実績値)</th> <th>H26年度 (実績値)</th> <th>H27年度 (実績値)</th> <th>H28年度 (実績値)</th> <th>H30年度 (目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央図書館来館者数</td> <td>112,809</td> <td>133,607</td> <td>133,793</td> <td>138,679</td> <td>15万人</td> </tr> <tr> <td>年間貸出人数(中央図書館分)</td> <td>49,142</td> <td>49,243</td> <td>47,974</td> <td>45,956</td> <td>55,000</td> </tr> </tbody> </table>			数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)	中央図書館来館者数	112,809	133,607	133,793	138,679	15万人	年間貸出人数(中央図書館分)	49,142	49,243	47,974	45,956	55,000
数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)															
中央図書館来館者数	112,809	133,607	133,793	138,679	15万人															
年間貸出人数(中央図書館分)	49,142	49,243	47,974	45,956	55,000															

② 子どもの読書活動の推進		達成状況
担当課	生涯学習課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書を通じた子どもの健やかな成長のための取組 <ul style="list-style-type: none"> *健康福祉課と連携し、4ヶ月検診とあわせてブックスタート事業(読みきかせ、絵本プレゼント、読書案内、図書館案内)を行った。(年間22回開催、参加人数267人) *市内保育園・幼稚園の年長児を招待しお話会を開催した。(年間11回、参加人数299人) *子育て支援センターに出向き、未就園児と保護者等を対象にお話会を開催した。(年間34回、参加人数463人) *小学校に出向き、お話会を開催した。(七塚小、年間4回、参加人数241人) ・子どもの関心と読書を結びつける取組 <ul style="list-style-type: none"> *手づくり絵本教室(全2回、参加人数31人) *調べる学習教室(1回、参加人数40人) *ブックマラソン(参加人数188人) *絵本で楽しむクッキング(年3回、参加人数60人) *茶会とお話会(参加人数30人)、工作とお話会(参加人数20人)、 *夜の図書館(参加人数30人) 		

- ・読書活動の励みになる取組
 - * 調べる学習コンクール（応募数 574 点）、手づくり絵本コンクール（応募数 78 点）及び作品展示、表彰式を行なった。
 - * 調べる学習コンクールの優秀作品を全国コンクールに推薦し、3 点が優良賞に選ばれた。
 - * 読書日記展を開催し、子どもたちの読書活動の様子を紹介した。（市内 6 小学校より 2 名ずつ）
 - * 小学校 3 年生を対象に、国語科「本は友だち」の学習の一環として、図書館の使い方や工夫などについて授業を行った。

<課題>

- ・お話ボランティアとの連携により、引き続き、図書館内外において取組を継続していく必要がある。
- ・学校現場や学校司書との連携をさらに深め、引き続き、読書日記の活用や調べる学習事業の推進を図る必要がある。
- ・小学校での英語・プログラミングの授業導入にあわせ、資料や事業を充実していく必要がある。

③ 市立図書館と学校図書館との連携		達成状況
担当課	学校教育課・生涯学習課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館・学校司書研修会を年 12 回開催。情報交換や研修を行い、連携を深めた。 ・市立図書館から学校図書館へ貸出資料・返却資料の物流を行った。（年間 52 回） ・学校司書からの情報提供により、授業での並行読書や調べ学習に役立つ資料を充実させた。 ・市立図書館・学校図書館関係の担当で研修会を開催し、図書館を活用したアクティブラーニングについて理解を深めた。（学校図書館担当教員・学校司書・市立図書館職員が参加。） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館司書、学校司書、学校図書館担当教員 3 者の緊密な関係を引き続き保ち、市立図書館と学校図書館の十分な連携を保つ必要がある。今後も定期連絡会を開催し、意識の共有と相互理解を図っていく。 		

④ ICT化への取り組み		達成状況
担当課	生涯学習課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川県立図書館主催の会議や研修会に参加し、情報収集に努めた。 ・学校図書館⇄中央図書館間のシステム統合については、統合によるメリットと費用対効果を検討した結果、コストがあまりにも高く、導入しないこととした。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍の導入については、学校の状況を把握しながら引き続き調査を進める必要がある。 		

基本的方向 3 - (4) 博物館活動の充実と情報発信

① 石川県西田幾多郎記念哲学館の充実		達成状況															
担当課	生涯学習課	A															
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示リニューアル及び外国人来館者に対応した新しいリーフレット及びガイドブックを作成した（日本語版、英語版、ドイツ語版、中国語版）。 ・常設展示に加え、企画展を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> テーマ：哲学者の随筆 平成 28 年 2 月 2 日～平成 28 年 6 月 26 日 テーマ：幾多郎と作太郎 平成 28 年 6 月 28 日～平成 28 年 10 月 30 日 テーマ：禅 平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 3 月 26 日 ・哲学館発信事業の継続的展開として、ゆかりの地「山口市」にて講演会・読書会・旧宅等見学会を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 9 月 24 日 講演会等会場：山口県立図書館 参加者 200 人 9 月 25 日 見学会会場：西田旧宅＋辻村文庫 参加者 50 人 ・中級者、上級者向けの「西田幾多郎哲学講座」、『善の研究』を一章ずつ読みすすめる「寸心読書会」、3泊4日の「夏期哲学講座」、禅文化を体験する「座禅会」を開催した。 ・身近なテーマをとりあげ、哲学館受講生の裾野が広がるよう、気軽に参加できる初心者向けの講座を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 『哲学入門講座』 2 回 参加者 64 人 ・身近な問題について考えを深め、対話を楽しむ（アクティブ・ラーニング）トークイベントを開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 『哲学カフェ』（一般向け） 4 回 参加者 50 人 『中学生のための哲学カフェ』（12 月） 参加者 20 人 『小学生の哲学カフェ』（2 月） 参加者 50 人 『DO INE』 5 回 参加者 67 人 ・講演会等に参加するのではなく、気軽に哲学に触れられるよう哲学館ホワイエに「食」をテーマにした本約 50 冊を配架して、期間限定の図書空間をつくりだし考えるきっかけとなる『本の展示会』を 2 月 1 日から 3 月 12 日にかけて開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 閲覧人数 延べ 2,989 人 ・各種研修の受入と出前講座を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 研修受入 延べ 12 回 468 人 出前講座 延べ 11 回 1,533 人 ・大学等のゼミナールによる哲学館利用の促進を図った。 <ul style="list-style-type: none"> かほく市宿泊施設制度利用による来館実績： <ul style="list-style-type: none"> 3 大学（玉川大学、立命館大学、金沢美術工芸大学）、延べ 53 人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい情報をより早くアップし、魅力あるホームページをつくり情報発信を行うとともに、新聞やテレビ等にも多くの情報を提供し、哲学館のPRを行い交流人口の拡大を目指す必要がある。 ・ゆかりの地講演会や哲学カフェなどの特色ある事業を継続的に展開し、新たな来館者（交流人口）の増加に努める必要がある。 ・収蔵資料の整理、分析を進め、かつインターネット上でも閲覧可能なデータベース化に取り組み、西田博士及び哲学館の周知につなげていく必要がある。分析等では大学や博物館等との連携強化を図る必要がある。 																	
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>数値目標項目</th> <th>H24年度 (実績値)</th> <th>H26年度 (実績値)</th> <th>H27年度 (実績値)</th> <th>H28年度 (実績値)</th> <th>H30年度 (目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>西田幾多郎記念哲学館の 年間総利用者数</td> <td>23,541 (H20～24 の平均)</td> <td>25,217</td> <td>24,357</td> <td>26,294</td> <td>25,000</td> </tr> </tbody> </table>				数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)	西田幾多郎記念哲学館の 年間総利用者数	23,541 (H20～24 の平均)	25,217	24,357	26,294	25,000
数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)												
西田幾多郎記念哲学館の 年間総利用者数	23,541 (H20～24 の平均)	25,217	24,357	26,294	25,000												

② うみっこらんど七塚「海と渚の博物館」の充実		達成状況												
担当課	生涯学習課	A												
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海と渚の博物館」での民俗資料の公開と「市民ギャラリーうみっこ」での作品展示を行い、屋外のキャンプ場及びバーベキュー場の運営により人々の交流活動を促進した。 ・博物館展示室観覧者数 11,675人（うちギャラリー入場者数 8,329人） 平成21年度以降最多の観覧者数を記録した昨年度の数値をさらに上回った。 ・「市民ギャラリーうみっこ」での展示会の開催 35回 （主な展示会） 押花アート展、かほく市絵画愛好会グループ展、春の山野草展、うみっこ企画展2016、写真愛好家70人+α展、かほく市書道協会展、PFU社友会作品展、Kふれんず2016ガラスアート展、MOA美術館かほく市児童作品展、HAND AND HAND コラボ展、私の作品展 ・キャンプ場等利用者数 10,993人（うちバーベキュー場利用者数 5,866人） 平成27年度に引き続き、1万人を超える利用者数となった。 ・体験活動の実施 貝がらアート体験 246人、プラ板工作体験 69人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報誌への掲載のほか、インターネット、ケーブルテレビ、関連雑誌など、情報媒体の利用拡大を更に図り、ホームページによる施設最新情報の発信とPRを強化し、更なる来場者の増加を図る必要がある。 ・「市民ギャラリーうみっこ」については、市民の芸術文化活動の発表の場としての利用促進をさらに進める必要がある。 ・利用者の利便性向上や施設利用促進の観点を踏まえた管理、運営体制の見直しについては、引き続き適宜行なっていくことが大切である。 														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>数値目標項目</th> <th>H24年度 (実績値)</th> <th>H26年度 (実績値)</th> <th>H27年度 (実績値)</th> <th>H28年度 (実績値)</th> <th>H30年度 (目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>うみっこらんど七塚の 年間総利用者数</td> <td>20,063 (H20~24の平均)</td> <td>18,614</td> <td>21,278</td> <td>22,668</td> <td>21,000</td> </tr> </tbody> </table>			数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)	うみっこらんど七塚の 年間総利用者数	20,063 (H20~24の平均)	18,614	21,278	22,668	21,000
数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)									
うみっこらんど七塚の 年間総利用者数	20,063 (H20~24の平均)	18,614	21,278	22,668	21,000									

③ かほく市ゆかりの人物の紹介と全国への発信		達成状況
担当課	生涯学習課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・西田幾多郎の紹介・発信 <ul style="list-style-type: none"> * 西田幾多郎記念哲学館において、市内の小学校5年生、中学校2年生を対象に西田幾多郎の生き方や考え方について学ぶ「共通道徳」を実施した。児童生徒が、西田幾多郎の生き方について学び、道徳的価値観を得る機会とした。 * 石川県学童話し方大会及び全国吟詠大会、西田幾多郎博士頌徳会書道展を開催し、西田幾多郎博士の偉業や努力を知り、郷土を愛する心の醸成を図った。 * 全国15都府県から48名の参加を得て、恒例の夏期哲学講座を8月20日から23日にかけて西田幾多郎記念哲学館で開催した。 * ゆかりの地の山口市において山口大学、山口県・山口市教育委員会等多くの協力のもと、9月24日に山口県立図書館にて、『西田幾多郎に会う』と題し講演会等を、25日には西田旧宅等見学会を開催した。 * 西田哲学館・鈴木大拙館両館主催により、交流協定五周年記念特別講演会を鎌倉の円覚寺派管長を招き1月29日に、西田哲学館にて開催した。 * 展示リニューアル及び外国人来館者に対応した新しいリーフレット及びガイドブックを作成した（日本語版、英語版、ドイツ語版、中国語版）。 * かほく市子ども議会の提案を受け、視覚障害の方や子どもにも西田先生の生涯や人柄を気軽に学んでもらうための寸心読本朗読CDを作成した。 * 報道関係に広く哲学館事業等を周知することにより、県外の新聞等を含め数多く新聞掲載された。またテレビ等にも多く取り上げられる機会があった。 これらの事業を通じて、地元はもとより国内外に西田幾多郎を広く紹介及び発信した。 ・鶴彬の紹介・発信 <ul style="list-style-type: none"> * 高松産業文化センター2階において、鶴彬に関する展示が行なわれている。 * 高松川柳会主催による「第21回鶴彬川柳大賞」が開催され、全国へ情報が発信された。 投句者数：203人 * 鶴彬を顕彰する会が主催する「鶴彬没後80年シンポジウム『鶴彬を語る』開催事業」に文化活動支援事業補助金（石川県文化振興基金1/2市1/4）を交付した。 【事業内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・高松産業文化センターにおいて川柳講座を5回開催し、延べ200人が参加 ・絵本「鶴彬の生涯」を制作し、市内外の小中学校に寄贈 * 鶴彬を顕彰する会が主催する「鶴彬のふる里市民川柳祭」を後援した。 <ul style="list-style-type: none"> ・応募者：小学生286人、中学生195人、一般26人 ・高松小学校、七塚小学校6年生を対象に、宇部 功氏による特別授業 ・櫻井三郎左衛門の紹介・発信 <ul style="list-style-type: none"> * 高松自治文化協会及び高松公民館の主催事業 児童劇「勇気ある知恵者 櫻井三郎左衛門物語」を上演した。 【事業内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・12月11日 高松産業文化センターにて公演（参加者150人） ・2月11日 コミュニティ・スクールシンポジウムにて公演（参加者235人） ・3月25日 聴覚障がい者対象生活教室（社会福祉協議会とのタイアップ）（参加者150人） ・図書館でのDVD設置および貸出 ・東善作の紹介・発信 <ul style="list-style-type: none"> * 東善作の功績を顕彰する事業として開催された「第21回石川県紙ひこうき大会 in かほく」に補助金を交付し、併せて大会の運営支援を行った。（参加者：延べ228人） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・西田幾多郎をはじめとするかほく市ゆかりの人物に係る事業を継続し、市民のふるさと学習をさらに充実させる必要がある。 ・文化活動支援事業にて「高橋ふみ」を、コミュニティ・スクールの取組として「唐仁屋三郎兵衛」を取り上げる動きがあることから、実現に向け支援する必要がある。 ・哲学館多言語版リーフレットなど活用し、外国人への周知に努める必要がある。 		

基本的方向 4 - (2) 芸術文化活動の促進と支援

① すぐれた芸術に触れる機会の提供		達成状況
担当課	学校教育課・生涯学習課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スクールシアターを開催した。(県との共催) <ul style="list-style-type: none"> * 期日及び会場 6月14日(火) 七塚小学校体育館 * 参加者 七塚小学校全児童及び教職員 265人 * 公演内容 劇団エンゼルによる創作劇「はじめに見えたもの」 ・ オーケストラ鑑賞教室を開催した。(県との共催) <ul style="list-style-type: none"> * 期日及び会場 6月7日(火) 高松中学校体育館 * 参加者 高松中学校全生徒及び教職員 291人 * 演奏内容 オーケストラ・アンサンブル金沢による演奏 ・ かほく市クリスマスコンサートを開催した。 <ul style="list-style-type: none"> * 期日及び会場 12月23日(祝) 西田幾多郎記念哲学館 * 参加者 一般市民 170人 * 演奏内容 オーケストラ・アンサンブル金沢メンバー4人による弦楽四重奏 ・ かほく市立中央図書館読書の日事業 影絵芝居「雪の女王」を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> * 期日及び会場 1月22日(日祝・月) 七塚生涯学習センター 視聴覚講義室 * 参加者 一般市民 45人 * 演奏内容 わらべうたとえんげきの広場はちみつのメンバー3人による影絵芝居および楽器生演奏 ・ かほく市立中央図書館読書の日事業 朗読公演「ゼロ弾きのゴーシュ」を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> * 期日及び会場 2月26日(日) 七塚生涯学習センター 視聴覚講義室 * 参加者 一般市民 110人 * 演奏内容 細川律子氏による朗読および野村幸夫氏によるチェロ生演奏 ・ かほく市立中央図書館読書の日事業 「宮沢賢治作品朗読公演」を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> * 期日及び会場 3月26日(日) 七塚生涯学習センター 視聴覚講義室 * 参加者 一般市民 90人 * 演奏内容 MRO北陸放送アナウンサー松村玲郎氏による朗読公演 ・ かほく市立中央図書館読書の日事業 毎月アフタヌーンコンサートを開催した。 <ul style="list-style-type: none"> * 期日及び会場 毎月23日前後の日曜日 七塚生涯学習センター 一般図書閲覧コーナーまたは視聴覚講義室 * 参加者 全12回 490人 * 主な内容 トーンチャイム、ハーモニカ、ギター、マリンバ、オカリナ、ピアノ、ハンドベル ほか ・ 市民ギャラリーうみっこで展示会を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> * 開催回数 計35回 * 主な内容 書道展、木版画展、絵画展、水墨画展、生花展 ほか <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も石川県や市文化協会、中央図書館や哲学館、うみっこらんど七塚との連携を図りながら、すぐれた芸術鑑賞の機会を提供し続けることが必要である。 ・ 哲学の杜のライトアップとコンサート事業等のコラボレーションにより、集客力をより強化する必要がある。 		

② 文化活動団体・個人への支援		達成状況
担当課	生涯学習課	B
<p><取組内容・成果></p> <p>【かほく市文化協会の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度より、伝承芸能保存協会に「上田名伝承芸能保存会」が加入した。 ・パッチワーク協会にビーズステッチグループが加わり、「手芸協会」として再出発した。 ・文化活動団体の紹介チラシにて団体情報を発信した。 <p>【文化活動支援事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規事業2件、継続事業1件を認定した。 <ul style="list-style-type: none"> * H28～29 鶴彬没後80年シンポジウム「鶴彬を語る」開催事業 * H28～29 民話・偉人伝紙芝居デジタル化事業 * H27～29 かほく声楽アカデミー <p>【全国大会出場者への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国大会出場者激励費（文化振興激励費）の支給により文化的活動を支援した。 <ul style="list-style-type: none"> * 第31回国民文化祭あいち2016 競技かるた部門 1人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市文化協会では、新規加盟により活性化した単位協会がある一方、高齢化や会員数の減少により活動を休止したグループもあり、各グループの活動状況を紹介するなど、情報の発信により新たな会員の加入を促進する必要がある。 ・「文化活動支援事業」（石川県文化振興基金1/2市1/4）のPRに努め、市民自らが主体的に「ふるさと学習」「すぐれた芸術活動」等に関わることができるよう、引き続き支援していく必要がある。 		

③ 地域や世代を越えての交流の促進		達成状況
担当課	生涯学習課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習フェスティバルの芸能発表ステージにおける「100人コーラス」（市内7コーラスグループによるもの）や「100人バンド」（かほく市吹奏楽団と市内3中学校吹奏楽部によるもの）は、来場者から引き続き好評を得ている。 ・芸能発表ステージにおいて詩吟の朗詠とともに茶を点てる「茶道吟」を初めて行った。 ・子ども文化教室として開催した「子ども煎茶教室」では、市内小学生5人が日本古来の礼儀作法や和のこころについて、煎茶道を通じて学び、体感した。 ・かほく市文化協会と飛騨市文化協会の交流会を開催し、文化協会の役員を中心に、合併からの期間や人口規模が似通った自治体の内情を知り、意見交換する貴重な体験ができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化活動活性化のため、これまでの枠組みを越えた連携や協働による活動を模索するも新たな取組の実現には時間が必要である。 ・各種文化活動団体による青少年向けの教室の開催などにより、文化活動による世代交流や地域交流を促進する必要がある。 		

基本的方向 4 - (3) 未来に伝える文化財の保護と活用

① 歴史学習の充実		達成状況 B
担当課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民大学校において、県関係機関から講師を招いて講座を開き、郷土の歴史及び文化財を知る機会を提供した。 <ul style="list-style-type: none"> * 『末森合戦の周辺』 石川県立図書館史料編さん室 室員 瀬戸 薫 氏 ・「文化財ガイドQR動画看板」の作成 【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> * かほく市ボランティア観光ガイド「夢案内スマイル」の協力を受け、市内文化財の紹介動画にリンクするQRコードを設置した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史学習に関わる新たな取組について、観光ボランティアガイドや市民グループとの協働を進める必要がある。 ・QR動画看板については計画的に設置を進め、郷土の歴史や文化財により親しみやすい環境整備に努めるとともに、ボランティア観光ガイドの事業等において活用していく。 		

② 考古、歴史、民俗資料の活用		達成状況 B
担当課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の考古、民俗資料など文化財資料については、高松第四保育園跡施設にて一括管理している。 ・七塚生涯学習センター、高松産業文化センターの展示コーナーで、一部文化財の公開を行なった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専用の資料館が無いものの、各種展示スペースを活用したミニ展示会の開催や資料紹介コーナーの開設など、今後も収蔵文化財の活用について創意工夫が必要である。 		

③ 国、県、市指定文化財の保護と活用		達成状況 B
担当課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡整備されている上山田貝塚（国指定史跡）、大海西山遺跡（県指定史跡）については、社会科等の見学先として市内外で活用された。 <ul style="list-style-type: none"> * 遠足 4月27日 宇ノ気小学校 ※（事前に生涯学習課に利用申請があった学校のみ掲載） ・しだれ桜の再生事業の先進地である埼玉県北本市の「石戸蒲ザクラ」の事例を視察し、喜多家しだれ桜の保護措置を行い、一定の効果を確認した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・喜多家しだれ桜の保護措置を継続し、樹勢を観察していく必要がある。 ・市指定文化財の現況確認と新たな文化財の掘り起こしを継続する必要がある。 		

④ 地域学習や学校授業への活用		達成状況													
担当課	生涯学習課	B													
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大海西山遺跡にちなみ、市内5小学校で弥生土器づくりを実施し、うち大海小・高松小については大海西山弥生の里を会場に土器焼き体験を行った。 <p>【平成28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大海小16人、高松小70人、七塚小46人、外日角小61人、金津小19人、宇ノ気小144人 ※いずれも対象は小学6年生。なお宇ノ気小学校は、遠足の際の火起こし体験のみ実施。 ・市独自の文化財学習への支援を行なった。 ※長柄用水の案内・説明：高松小学校4年生（73名）、大海小学校4年生（14名） ※上山田貝塚、大海西山遺跡の案内・説明：七塚小学校6年生（46名） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の地域学習や学校授業への活用については、継続的に検討を重ねるとともに、学校現場の教員の意見などを参考としていくことが大切である。 															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>数値目標項目</th> <th>H24年度 (実績値)</th> <th>H26年度 (実績値)</th> <th>H27年度 (実績値)</th> <th>H28年度 (実績値)</th> <th>H30年度 (目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歴史教室講座数</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>		数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)	歴史教室講座数	6	6	6	7	10		
数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)										
歴史教室講座数	6	6	6	7	10										

⑤ 保管活用施設等の充実		達成状況	
担当課	生涯学習課	B	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高松第四保育園跡施設での一括保存管理を行なっている。 ・高松産業文化センター、七塚生涯学習センターの展示コーナーにおいて、郷土資料等の展示を行った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵施設の経年劣化が進行しており、適切な保管のための修繕などを継続的に進めていく必要がある。 ・収蔵品の適切な保管のため、収蔵施設については、定期巡回による管理状況の確認を行なう必要がある。 			

⑥ 職員の専門性の強化		達成状況	
担当課	生涯学習課	B	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県文化財課が実施する試掘調査等にも随時同行し、現場作業の経験を重ねた。 ・石川中央都市圏連携協約にかかる4市2町（金沢市・白山市・かほく市・野々市市・津幡町・内灘町）の文化財担当課で構成する石川中央都市圏歴史遺産活用連絡会を発足し、圏域内の文化財保護行政の推進を図るため、情報交換や課題の共有等を行った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県や他市町の調査への参加などにより、積極的に実践的経験を積み重ねる必要がある。 ・埋蔵文化財取扱いマニュアルの早期作成を進める。 			

基本的方向 5 - (1) 生涯スポーツの推進

① スポーツ推進委員の役割		達成状況
担当課	生涯学習課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28～29 年度のスポーツ推進委員に 17 名を選任・配置した。 ・市民へのスポーツ理解を深めるため、スポーツの実技指導・助言、連絡調整の役割を担っているスポーツ推進委員の資質向上を図るため、各種研修会へ派遣した。 <ul style="list-style-type: none"> * 全国スポーツ推進委員研究協議会（福井県越前市） 期日 11 月 17 日（木）・18 日（金） 5 人 * 北陸地区スポーツ推進委員研修会（福井県越前市） 期日 6 月 25 日（土）・26 日（日） 5 人 * 石川県スポーツ推進委員協議会実技研修会（七尾市） 期日 12 月 11 日（日） 12 人 * 金沢地区兼河北郡市スポーツ推進委員協議会実技研修会（金沢市） 期日 2 月 12 日（日） 12 人 ・市担当部局と連携し、生涯スポーツ活動の普及・推進を図る事業を積極的に企画運営した。 <ul style="list-style-type: none"> * かほく市民ふれあいウォーク * かほく市スポレクサーキット大会（3 種目） * ラジオ体操指導者講習会（3 地区） * かほく市民体力テスト * 河北潟一周駅伝競走大会 * かほく市民交流大会 * かほく市制施行記念継走大会 ・公民館や自治会などの活動指導や支援を行なった。 <ul style="list-style-type: none"> * 宇野気公民館ラジオ体操指導 * 宇野気区ペタンク大会指導（新） * 子ども会高松支部綱引き大会運営協力 * 民間企業へのラジオ体操指導 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進員の役割や活動を広報紙やCATVを利用し、市民に発信するとともに新規推進員の増員が必要。 ・研修会等への派遣枠に限りがあるものの、参加推進員の固定化を解消し、また研修内容等の共有化を図ることで推進内の共通意識を高める必要がある。 ・スポーツ啓発活動として定着してきた「市民ふれあいウォーク」や「スポレクサーキット大会」については、参加者の募集方法も含め、次の段階として今後の展開について検討する必要がある。 		

② 体を動かす機会の提供と日常化の促進		達成状況												
担当課	生涯学習課	B												
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の健康・体づくりのため、スポレクサーキット大会、サンドヒルグラウンド・ゴルフ大会、市制施行記念継走大会等の各種スポーツ大会を開催し、生涯スポーツの普及・啓発を図った。 ・スポレクサーキット大会では、少年少女、一般男女の部門での競技を行い、子どもから高齢者まで参加できる大会として実施した。気軽にスポーツに親しむ機会を提供した。 参加登録チーム総数：40 チーム 登録人数総数：350 人 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">平成 28 年度</td> <td style="width: 55%;">第 1 戦（トリプルフレッシュバドミントン）</td> <td style="width: 30%;">小計 27 チーム</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第 2 戦（ペタンク）</td> <td>小計 23 チーム</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第 3 戦（トリプルソフトバレー）</td> <td>小計 40 チーム</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>合計 90 チーム</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・市制施行記念継走大会は、平成 27 年度に比べ、一般男子は増加した。 			平成 28 年度	第 1 戦（トリプルフレッシュバドミントン）	小計 27 チーム		第 2 戦（ペタンク）	小計 23 チーム		第 3 戦（トリプルソフトバレー）	小計 40 チーム			合計 90 チーム
平成 28 年度	第 1 戦（トリプルフレッシュバドミントン）	小計 27 チーム												
	第 2 戦（ペタンク）	小計 23 チーム												
	第 3 戦（トリプルソフトバレー）	小計 40 チーム												
		合計 90 チーム												

(参考：市制施行記念継走大会参加チーム数)

平成 28 年度	一般男子	(40 チーム)	一般女子	(7 チーム)	合計 113 チーム
	中学男子	(20 チーム)	中学女子	(12 チーム)	
	市外一般男子	(12 チーム)	小学生	(22 チーム)	
平成 27 年度	一般男子	(32 チーム)	一般女子	(19 チーム)	合計 122 チーム
	中学男子	(30 チーム)	中学女子	(12 チーム)	
	市外一般男子	(14 チーム)	小学生	(25 チーム)	

<課題>

- ・生涯スポーツの推進を目的とした「スポレクサーキット大会」については、推進員の協力を得て、公民館、町会、企業などの単位での参加も呼びかける必要がある。
- ・最も身近で気軽な運動であり、健康増進も見込めるウォーキングを広く普及するため、ウォーキングクラブ「にゃんたろう」との連携や公民館、町会、企業等の協力を求める事業展開を検討していく必要がある。
- ・平成 26 年度に市役所周辺の周回コースへ変更した「市制施行記念継走大会」については、大会予定をPRするとともに大会趣旨を広く市民に周知し、参加チームの増加や街頭での応援について協力をもとめ地域一体で盛り上げるなど新たな取組を目指す必要がある。

③ 他団体との連携による健康・体力づくりの取組

達成状況

担当課

生涯学習課

B

<取組内容・成果>

- ・健康づくり、体力づくりを促進するため、高齢者の健康クラブと児童のスポーツ少年団の活動を支援した。
- ・石川県立看護大学との連携により「市民体力テスト」を実施し、各自の体力年齢の把握と今後の日常運動に対する指導を実施した。参加人数は平成 26 年度 88 人、平成 27 年度 122 人、平成 28 年度 108 人と順調に推移している。健康クラブ会員への参加を促し、自身の体力年齢を知り体力づくりの習慣化の必要性を認識する機会とした。

<課題>

- ・各種スポーツ団体への参加会員数は増となっているものの、健康クラブは会員数が減少傾向にある。関係団体等と連携し新規会員の加入を促すことが必要である。
- ・市民体力テストの参加総数は増加したが、年齢層区分に偏りが見られた。広報活動等のPR方法の検討も含め青年層、中年層への参加を引き続き呼び掛ける必要がある。
- ・「市民体力テスト」のデータの集積と活用については、石川県立看護大学と協議・検討を進めており、引き続き、石川県立看護大学との連携が必要である。

数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)
健康クラブ、スポーツ少年団、体育協会 総合型地域スポーツクラブの会員数	9,200	10,278	9,776	9,652	9,500

基本的方向 5 - (2) 競技スポーツの拡充・強化、底辺の拡大

① 各種スポーツ大会の実施		達成状況
担当課	生涯学習課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 競技スポーツの競技力の向上と競技人口の底辺拡大と生涯スポーツの推進を図るため、広い世代を対象に各種大会を継続実施した。 －主な大会－ <ul style="list-style-type: none"> * 第 13 回かほく市総合体育大会 * 第 68 回石川県民体育大会（体育協会） 新たに女子体操競技（ラジオ体操）に参加した。 新たに市ペタンク協会が発足した。 * サンドヒルかほく市 2016 グラウンド・ゴルフ大会 * 第 13 回かほく市学童招待野球大会 * 第 21 回新化旗争奪全国中学校選抜剣道大会 * 第 38 回加賀能登少年剣道大会 * 第 13 回河北郡市中学校春季ソフトボール大会 * 第 16 回河北郡市中学校春季バスケットボール大会 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も継続し、スポーツ少年団、中学校部活動、体育協会との連携が必要。 		

② 児童、生徒の競技力向上のための大会の開催・支援		達成状況
担当課	生涯学習課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育協会加盟の単位協会並びにスポーツ少年団加盟団体等が主催・協力し、児童・生徒の競技力向上のために開催する各種競技大会等を支援した。 －支援事業－ <ul style="list-style-type: none"> * 第 13 回かほく市学童招待野球大会 * 第 21 回新化旗争奪全国中学校選抜剣道大会 * 第 38 回加賀能登少年剣道大会 * 第 13 回河北郡市中学校春季ソフトボール大会 * 第 16 回河北郡市中学校春季バスケットボール大会 ・ スポーツ少年団へ活動補助金を交付した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種大会の開催・運営、また児童生徒の指導・支援を行う人材の育成・確保が必要である。 		

③ 競技スポーツ指導者の育成と指導体制の強化		達成状況																												
担当課	生涯学習課	B																												
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 指導者育成のため、各競技の公認審判員等の資格取得のための研修・登録費用の一部助成を行った。公認審判員の資格取得を奨励した。 公認審判員取得奨励金支給人数 82人（うち新規29人） 内訳【H28】 82人（内新規29人） <table border="0"> <tr> <td>陸上競技</td> <td>17人</td> <td>トランポリン</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>オリエンテーリング</td> <td>1人</td> <td>ゲートボール</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ソフトボール</td> <td>9人</td> <td>バドミントン</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>レクリエーション</td> <td>1人</td> <td>バスケットボール</td> <td>11人</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 参考 【H27】 65人（内新規9人） <table border="0"> <tr> <td>陸上競技</td> <td>20人</td> <td>ゲートボール</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>ソフトボール</td> <td>10人</td> <td>トランポリン</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>水泳競技</td> <td>4人</td> <td>オリエンテーリング</td> <td>1人</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度と比較し奨励金支給人数、新規登録・申請者は増加した。 競技によって登録の有効期限が異なるため、年度ごとに申請者数に違いが生じるが、かほく市における支給資格登録者数は着実に増加している。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ジュニア期から成年期までの一貫した指導体制の確立は必要であるが、競技種目によって協会組織とスポーツ少年団組織との連携が不十分な場合が認められる。 公認審判員の有資格者は、平成28年度末現在で252人であり、今後も継続した指導者の育成と人材確保に努めるとともに、指導体制の強化のため体育協会やスポーツ少年団の会議等の場で周知し資格の取得の促進を図る必要がある。 			陸上競技	17人	トランポリン	24人	オリエンテーリング	1人	ゲートボール	4人	ソフトボール	9人	バドミントン	15人	レクリエーション	1人	バスケットボール	11人	陸上競技	20人	ゲートボール	3人	ソフトボール	10人	トランポリン	27人	水泳競技	4人	オリエンテーリング	1人
陸上競技	17人	トランポリン	24人																											
オリエンテーリング	1人	ゲートボール	4人																											
ソフトボール	9人	バドミントン	15人																											
レクリエーション	1人	バスケットボール	11人																											
陸上競技	20人	ゲートボール	3人																											
ソフトボール	10人	トランポリン	27人																											
水泳競技	4人	オリエンテーリング	1人																											

④ 全国大会等出場者への激励		達成状況
担当課	生涯学習課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 競技スポーツの振興を図るため、全国大会へ出場する選手・監督等に対して激励費を支給した。また激励会を開催し、上位入賞をめざす精神的高揚を図った。 ※全国高校総合体育大会、国民体育大会、全国高校選抜大会の出場選手激励会を開催 平成27年度から市内に住所を有する中学生以下の全国大会への上場者に対し、交通費等の必要経費に対する助成を行い、保護者の負担軽減を図った。 －全国大会出場実績－ 計：47大会 168人〔内訳：中学生以下（26大会 90人）、高校生以上（21大会 78人）〕 ※中学校体育連盟主催大会以外の全国大会への上場選手に随行する教員に対する激励費等の助成制度を新たに整えた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 競技力向上を支援することを目的とし、全国大会へ激励費、交通費、宿泊費の支給を継続するとともに、指導者等へ周知を図り、制度の積極的運用を図る必要がある、 		

基本的方向 5 - (3) スポーツ団体の育成支援と連携

① スポーツ少年団への支援		達成状況
担当課	生涯学習課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の体力向上及び心身の健全な育成を図るため、スポーツ少年団活動への支援として、活動補助金の交付と事務支援を行った。 <ul style="list-style-type: none"> * 団員数 32 団体 629 人（うち中学生 19 人、幼児 16 人） 【H27：32 団体 617 人（うち中学生 6 人、幼児 12 人）】 * 指導者数 179 人【H27：186 人】 * 市スポーツ少年団としての主な取組 <ul style="list-style-type: none"> 4 月：開講式 7、11 月：スポーツ指導者講習会 <ul style="list-style-type: none"> 7 月：平下政美氏による講習「ジュニア期のトータルコンディショニング」 57 人出席 11 月：かほく市消防本部による講習『心肺蘇生法・AED の使用方法について』 39 人出席 2 月：フェスティバル及び閉講式 ・スポーツ少年団への加入率（小学生）は市内全児童の約 32% であり、多くの児童がスポーツ活動を行っている。（H27：32%） ・青少年の健全育成を図るため、夜 9 時までを活動時間とする指導を強化し、規則正しい生活習慣の定着を図った。 ・スポーツ技術の習得だけでなく、社会性、協調性、規律を育む場として大切な役割を果たしている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年期には色々なスポーツ体験が必要であると言われるが、少子化により児童数、そして支援者である保護者数が減少傾向にある中、スポーツ少年団への加入年齢の低年齢化が進んでいる。 ・指導者には、競技力向上のみならず、礼儀・作法等の指導が求められており、研修機会を提供するとともに指導者への自覚を促す必要がある。 		

② 体育協会との連携		達成状況
担当課	生涯学習課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育協会並びに加盟競技団体（32 競技協会）との連携により市総合体育大会及び各種競技団体が主催する大会を継続して開催した。 <ul style="list-style-type: none"> * 市総合体育大会 平成 27 年度（26 競技大会） 平成 28 年度（27 競技大会） * 競技団体主催大会 平成 27 年度（14 競技大会） 平成 28 年度（15 競技大会） 市総合体育大会並びに競技団体主催大会については、開催競技数は増加している。 ・第 68 回石川県民体育大会にかほく市選手団として出場し上位入賞を果たした。 <ul style="list-style-type: none"> * 石川県民体育大会 平成 28 年度結果 男子：総合 7 位、女子：総合 5 位 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の競技団体において、会員の高齢化また新規加入会員の不足がみられ、活動及び県体出場選手の確保に苦慮するケースが生じている。新規加入会員の募集について工夫が必要である。 		

③ 総合型地域スポーツクラブへの支援と連携		達成状況
担当課	生涯学習課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブ「パレット」との連携により、体育施設の指定管理、スタジオプログラムの運営などを進めた。 <p>【クラブパレット概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> *会員数 2,515 人 (H29 年 3 月末) *教室 (こども向け) 39 教室 教室 (一般向け) 34 教室 その他スタジオ・サーキット事業を実施 *クラブパレットに体育施設 (8 施設) の指定管理を委託 (H24~H28) *宇ノ気体育館のスタジオプログラムや河北台健民体育館のトレーニングジムの運営により市民の体力づくり、健康づくりを進めた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育施設の指定管理業務や教室活動への支援を通して、NPO 法人クラブパレットの成長を継続して支えていくことが大切である。 		

④ 健康クラブへの支援		達成状況
担当課	生涯学習課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の運動の日常化を促進し、体力・健康増進を推進するため、市内の 3 つの健康クラブに対する支援 (送迎バスの手配、指導者の派遣) を行った。 ・活動を通じて、体力・健康づくりと会員の相互交流が図られた。 <p>【健康クラブ概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員数 高松健康クラブ 69 人 七塚健康クラブ 65 人 宇ノ気友垣健康クラブ 74 人 ・活動内容 週 1 回活動 (軽運動・ダンス・健康相談 (市長寿介護課による)) ・市からの支援内容 <ul style="list-style-type: none"> * 週 1 回の活動時の送迎バス手配 * 県健康クラブ交歓大会 (10 月 13 日)、研修会 (6 月 16 日、10 月 27 日) の送迎バス手配 * 活動への講師の派遣 (高松健康クラブ・七塚健康クラブ) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ会員の高齢化が進む中、会員数が減少傾向にある。退会数に対し新規加入数が少ない状況であり、活動の目的・内容について継続して周知し会員増加を図る必要がある。 ・活動内容は基本的に固定しているが、多様な運動の取り入れや交流活動の促進などを働きかけていく必要がある。 		

⑤ 各種団体の相互連携支援		達成状況
担当課	生涯学習課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団、体育協会、総合型地域スポーツクラブ、健康クラブといった各団体は、それぞれにおいて概ね充実した活動を行い、全体として市のスポーツ環境の充実に寄与した。 ・各団体の活動は、個々の活動にとどまっておらず、体育協会とスポーツ少年団の一部において連携した取組が認められる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状においては、各種団体として相互連携を求める意向は低い状況である。 		

基本的方向 6－(1) 安心して学べる教育環境の充実

① 学校防災マニュアルの策定		達成状況 B
担当課	学校教育課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災環境対策課と連携し、災害時に拠点避難所として設けるべきスペース（避難者生活スペース、救護室、介護室等）について、学校長と協議しながら選定した。 ・また、一部の学校に空きスペースを活用して防災資機材を配備した。 ・市防災訓練（会場：河北台中学校、七塚小学校、外日角小学校）に校長等が参加することにより、避難所運営等の学校としての役割を確認することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校が、災害時における拠点避難所となっていることから、引き続き、市防災訓練等に学校からも参加し、避難所運営マニュアルの運用について日頃から理解しておく必要がある。 		

② 自分の身を守る教育の充実		達成状況 B
担当課	学校教育課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校において、地域住民やPTA、見守り隊等の協力により、登下校における児童・生徒の安全確保が図られた。 ・各小中学校において、避難訓練を実施し、また県民一斉防災訓練「シェイクアウトいしかわ」による地震の際の初動対応である「しゃがむ」「隠れる」「じっとする」といった安全行動についても取り組み、自分の身は自分で守るという意識を醸成することができた。 ・学校防災アドバイザー派遣事業を効果的に活用し、防災意識を高めることができた。 *平成28年度 宇ノ気中学校 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校における避難訓練が実生活の中で生かせるようなものとなるよう、実践内容を吟味する必要がある。また、学校防災アドバイザーの指導を受けながら、各種マニュアルも随時更新していく必要がある。 		

③ 育英制度、奨学金制度の充実		達成状況 A
担当課	学校教育課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校及び高等専門学校に進学または在学する生徒で、成績が優秀にして、かつ経済的理由により修学が困難な者に対して、修学上必要な学資金を支給し、将来有能な人材育成として支援した。 *平成28年度 出願者 32人 うち15人に対して奨学金を支給（月額8,000円） ・就学援助費について、支給要件の、「児童扶養手当の全部支給」を「児童扶養手当の全部支給及び一部支給」とし、支給対象者を拡大して児童・生徒が安心して学べる教育環境を支援した。また、就学援助費のうち「新入学準備費」について新中学1年生を対象に早期に支給することとし、3月に支給した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学援助費のうち「新入学準備費」について、新小学校1年生を早期（3月）に支給する計画であり、周知時期を含めた申請方法、スケジュールを検討する必要がある。 		

④ 老朽建物の改築・改修		達成状況
担当課	学校教育課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成6年度から平成7年度に建設した金津小学校が20年経過したことから、平成27年度に国の補助採択（平成28年度に繰越）を受け、大規模改造工事を実施した。 国の補助採択を受け、普通教室のエアコン整備工事に着手した。（平成29年度へ繰越） （高松小学校・大海小学校・宇ノ気小学校・高松中学校） 特に老朽化が進んでいる七塚小学校と外日角小学校について、耐力度調査・老朽化状況調査を実施し、その結果を踏まえ、長寿命化改修事業により整備することとし、老朽化の進行が進んでいる外日角小学校の基本設計に着手した。（平成29年度へ繰越） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 外日角小学校、七塚小学校の基本設計にあたっては、学校や地域の方々の意見を取り入れ、今後の学習環境の機能向上を含めた計画とする必要がある。 外日角小学校、七塚小学校以外の学校についても、計画的な整備を検討する必要があり、平成32年度までに各学校の整備の方向性を示す「個別計画」を策定する必要がある。 		

⑤ 非構造部材の耐震化		達成状況																				
担当課	学校教育課	B																				
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 市内5小学校及び1中学校において、地震に備え体育館の非構造部材の耐震化工事を終えている。 <table border="1" data-bbox="247 1093 1348 1326"> <thead> <tr> <th colspan="2">数値目標項目</th> <th>H24年度 (実績値)</th> <th>H26年度 (実績値)</th> <th>H27年度 (実績値)</th> <th>H28年度 (実績値)</th> <th>H30年度 (目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">学校非構造部材の耐震化</td> <td>小学校</td> <td>0.0%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>0.0%</td> <td>66.7%</td> <td>66.7%</td> <td>66.7%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校非構造部材の河北台中学校講堂のつり天井について、建物機能を生かした耐震化を図る必要があるため、工法等について更なる調査・検討が必要である。 			数値目標項目		H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)	学校非構造部材の耐震化	小学校	0.0%	100%	100%	100%	100%	中学校	0.0%	66.7%	66.7%	66.7%	100%
数値目標項目		H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)																
学校非構造部材の耐震化	小学校	0.0%	100%	100%	100%	100%																
	中学校	0.0%	66.7%	66.7%	66.7%	100%																

⑥ ICT機器の整備		達成状況
担当課	学校教育課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高松小学校と宇ノ気中学校をICT教育推進モデル校に指定し、コンピュータ教室以外の普通教室や特別教室でのグループ学習におけるタブレット端末や電子黒板の活用について研究した。 <ul style="list-style-type: none"> <高松小学校> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの購入（20台）、ICT指導員派遣及び共同学習ソフト費（一式） <宇ノ気中学校> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの購入（3台） ・平成29年4月にパソコンのOS「Windows Vista」のサポートが終了するため、パソコンやその周辺機器等の更新を図った。 <ul style="list-style-type: none"> 更新台数（PC教室及び教員用パソコン） 282台 <ul style="list-style-type: none"> * パソコン教室のPC 144台（高松小、七塚小、外日角小、宇ノ気小、） * 教員用のPC 138台（市内6小学校） ・小学校及び中学校における指導要録を電子化し、毎年、手書きで作成していた指導要録の作成時間を短縮し、教員の校務の効率化を行って負担を軽減し、児童生徒に対する指導時間をより多く確保した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期学習指導要領では、情報化やグローバル化、人工知能の飛躍的な進化を背景に「プログラミング教育」が必須となることから、国が策定する「教育ICT教材整備指針」や先進事例も参考としながら、効果的なプログラミング教育についてICT機器の整備、Wi-Fi環境の整備について検討する必要がある。 ・教職員の事務負担を軽減することを目的に、校務支援システム等の導入について検討する必要がある。 		

⑦ 環境に配慮した教育設備の充実		達成状況
担当課	学校教育課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校全てが「いしかわ学校版環境ISO」に指定されていることから、家庭と協力しながら、リサイクル活動を行うとともに、ツバメ調査の実施、ごみの分別学習、海浜クリーン作戦など各校が積極的に取り組んだ。 ・石川県の補助事業「エネルギー教育推進事業」により、電気に関する様々な実験を行うことで、電気に関する理解を深め、また太陽光や風力といった環境に優しい次世代エネルギーについても理解を深めた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後予定している外日角・七塚小学校の長寿命化改修工事において、節水型のトイレや省電力照明など環境へ配慮した設計とする必要がある。 		

基本的方向 6 - (2) 生涯学習の拠点となる施設の適正管理と活用

① 生涯学習センターの運営管理		達成状況
担当課	生涯学習課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの生涯学習センター（七塚・宇ノ気）施設の適切な維持管理に努めた。安心して安全に利用できる生涯学習の場を提供した。 <p>主な修繕等</p> <ul style="list-style-type: none"> ＜宇ノ気生涯学習センター＞ <ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁修繕 ・ 軽運動室カーテン設置 ・ おひさま広場ロールカーテン設置 ・ 3階研修室（和室）畳表替 ＜七塚生涯学習センター＞ <ul style="list-style-type: none"> ・ 陶芸窯修繕 ・ 天体望遠鏡点検 ・ 太陽望遠鏡プレフィルター修繕 ・ 外灯修繕 ・ 受水槽ポールタツプ防波板強化加工 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の学習の場、成果発表の場としての活用を図るため、施設と設備の適切な管理に努め、良好な施設環境を保持し続ける必要がある。 		

② 地域交流施設の有効活用		達成状況												
担当課	生涯学習課	A												
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 団体活動や地域活動のための施設として、生涯学習センター以外に学校施設などの利用開放を行った。学校施設開放として、河北台中学校の交流棟や講堂を市民の利用に供した。 ・ 文化協会の加盟団体などの生涯学習活動の場として、高松産業文化センターや大海交流センターが利用された。 ・ 各種生涯学習活動団体による施設の定期利用計画の調整を図った。 ・ 生涯学習センター（七塚・宇ノ気）は、生涯学習の振興を図るため設置されたものであり、各種講座の開催に加えて、市民または市民団体の生涯学習活動の拠点となっている施設として活用できた。 ・ 市民の自主的な生涯学習活動の場を提供することは、市民サークルまたは団体等の学習を通じて自分づくりを進め、更に学びの成果が地域づくりへつながっていくことから、施設の管理を適切に行い、利用しやすい環境を維持することができた。 ・ 生涯学習センター内に子育て支援センターや子ども総合センターの機能が加わり複合施設化したことにより、利用者が増加し、施設の有効活用が図られた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き市民の生涯学習・子育て支援活動の拠点施設として、各種講座・教室の開催、子育て支援事業の利用を図る必要がある。 														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>数値目標項目</th> <th>H24年度 (実績値)</th> <th>H26年度 (実績値)</th> <th>H27年度 (実績値)</th> <th>H28年度 (実績値)</th> <th>H30年度 (目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>七塚、宇ノ気生涯学習センターの 年間利用者数</td> <td>24,802 (H20~24の平均)</td> <td>32,603</td> <td>49,901</td> <td>51,697</td> <td>26,000</td> </tr> </tbody> </table>			数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)	七塚、宇ノ気生涯学習センターの 年間利用者数	24,802 (H20~24の平均)	32,603	49,901	51,697	26,000
数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)									
七塚、宇ノ気生涯学習センターの 年間利用者数	24,802 (H20~24の平均)	32,603	49,901	51,697	26,000									

基本的方向 6 - (3) スポーツ施設整備の推進と活用

① 施設の統合計画の推進		達成状況 B
担当課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・弓道場の施設整理について、協会の意向を確認するも昨年に続き取り纏めは困難な状況であった。 ・宇ノ気野球場設備の経年劣化対応について、都市建設課及び関係団体と協議を進めた。 ・アクロス高松の人工芝張替えを含む経年劣化対応について検討を行った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育施設整備計画による整備は終了したが、長期的展望にたった施設の維持管理計画、修繕計画を含む長寿命化計画の策定が求められている。 ・宇ノ気野球場施設の経年劣化が著しく進行しており、都市公園全体としての整備計画策定の中で引き続き協議を進めていく。 ・アクロス高松のアリーナ部分の人工芝張替えについては、財源確保が困難な状況であり、継続的に検討を重ねる必要がある。 		

② 施設機能の充実・強化		達成状況 B
担当課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・河北台健民体育館トレーニングセンター体組成計更新（1台） ・野球場グラウンド整備のためスポーツトラクターアタッチメントを更新。 ・平成 33 年度のうのけ総合公園陸上競技場第 3 種公認の更新に向けた備品を購入。 ・七塚中央公園夜間照明改修工事を実施。 ・アクロス高松機械設備改修工事を実施。 ・宇ノ気野球場観客席改修工事を実施。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施設の設備改修を順次行っているが、経年劣化は順次生じており、今後一層の営繕費の増大が見込まれる。平成 28 年度に策定された「公共施設等総合管理計画」も踏まえ、今後体育施設全体としての長寿命化計画の策定に向け協議を進め、あわせて計画的営繕を行う必要がある。 		

③ 効率的な管理・運営		達成状況 B
担当課	生涯学習課	
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・23 の体育施設のうち、宇ノ気スポーツセンターを除く 22 の施設について、指定管理者による管理運営を行なった。 ・平成 29 年度からの次期指定管理者の選定を行い、公共施設管理公社と NPO 法人クラブパレットが継続することとなった。 ・利用料金制度（施設利用料を指定管理者の収入とする制度）をとっており、指定管理者による管理運営の改善を求めた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者には、施設の空き時間の活用策の検討とより効率的そして効果的な運営を進めるよう引き続き求めていく必要がある。 		

④ 学校体育施設の有効活用		達成状況												
担当課	生涯学習課	A												
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かほく市立学校施設利用条例の規定に基づき、すべての学校施設開放を行った。 ・スポーツ少年団加盟団体や総合型地域スポーツクラブ加盟団体を中心に、主にスポーツ団体によって定期的に利用された。利用に当たっては、学校と綿密な連携を取り、学校行事等の把握に努めることで、学校教育上支障をきたさないように学校開放を行うことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続し学校や地域との連携を図りながら、社会教育活動や公共的利用に対して周知するとともに学校施設の有効活用を図っていくことが必要である。 <p>(参考) 利用できる学校施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高松中学校(校舎、屋外運動場、屋内運動場) ○河北台中学校(校舎、屋外運動場、講堂) ○宇ノ気中学校(校舎、屋外運動場) ○高松・大海・七塚・外日角・宇ノ気・金津小学校(屋外運動場、屋内運動場) <p>利用条件: 市内在住者、在勤者及び在学者 10人以上で構成され、かつ、責任者としての成人を含む団体が、学校教育上支障がないと認められる限り、社会教育その他公共のために利用する場合。</p>														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>数値目標項目</th> <th>H24年度 (実績値)</th> <th>H26年度 (実績値)</th> <th>H27年度 (実績値)</th> <th>H28年度 (実績値)</th> <th>H30年度 (目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市内スポーツ施設の総利用者数</td> <td>562,243</td> <td>608,793</td> <td>627,046</td> <td>608,267</td> <td>563,000</td> </tr> </tbody> </table>			数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)	市内スポーツ施設の総利用者数	562,243	608,793	627,046	608,267	563,000
数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)									
市内スポーツ施設の総利用者数	562,243	608,793	627,046	608,267	563,000									

基本的方向 7- (1) 多文化共生社会および国際化に対応した教育の充実

① 国際交流事業の推進		達成状況
担当課	生涯学習課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市交流事業の実施 10月6日から15日まで、姉妹都市青少年交流として市内中学校生徒18人と引率者3人をドイツメスキルヒ市へ派遣した。事前研修をはじめ、メスキルヒ市民との交流、学校見学、市内外の見学を通して異文化交流を図ることができた。 姉妹都市交流青少年派遣事業の事前・事後研修会において、メスキルヒ市のホストファミリーへのEメールの書き方、手紙の書き方を指導し、IT技術を活用した市民による草の根レベルでの交流を図った。 ・JAPAN TENT かほく市プログラムの実施 8月18日から21日にかけて開催した第29回 JAPAN TENT かほく市プログラムでは、かほく市内の9家庭が留学生17名を受け入れ、異文化交流を行った。 ・市国際交流協会への支援と連携 市国際交流協会へ補助金を交付し、活動支援を行った。また、市国際交流協会からの要請に応じ、ドイツ語教室や各種イベントへの国際交流員(CIR)の派遣を行ったほか、市国際交流協会が実施する事業の周知を、市広報や「いいメールかほく」を通じて行った。さらに、JAPAN TENT 事業を市国際交流協会と協力して行った。 ・石川中央都市圏「国際交流連絡会」の発足 石川中央都市圏連携協約にかかる4市2町(金沢市・白山市・かほく市・野々市市・津幡町・内灘町)の国際交流所管課で構成する石川中央都市圏「国際交流連絡会」を発足し、圏域内の国際交流の推進を図るため、情報交換や課題の共有等を行った。(H28:3回連絡会開催) 6/19(日)~26(日)に開催された「かなざわ国際交流まつり2016」において、石川中央都市圏・国際交流パネルを設置し、圏域内の国際交流事業の紹介等を行った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの市民が参加できる国際交流に関する事業が必要である。 ・市国際交流協会との連携を継続し、今後も協力して事業を展開していくとともに、効率的事業運営を引き続き進めていく必要がある。 		

② 多様な文化に対する理解の推進		達成状況
担当課	生涯学習課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流協会による市民サロン「K-Kaffee」が開催された。(毎週火曜日10時~15時) ・市民の多文化共生への理解を推進するため、5月28日に映画上映会及びその後の意見交換会を実施した。 (映画:「バベルの学校」、映画上映会参加者:7人、意見交換会参加者:一般市民4人) ・2ヶ月に1回、市広報紙に多文化共生に関する記事を掲載した。 (記事名:「考えてみよう 多文化共生のこと」、ページ数:1/2P) ・毎月1回、国際交流員(CIR)による国際交流・国際理解に関する記事を掲載した。 (記事名:「イレネのグリアスデイ」、ページ数:1/2P) ・国際交流協会による「KATSこどもスクール(外国人と子どもの交流事業)」が3回(6・8・10月)開催された。 ・市内に転入・在住する外国人を対象に市内での日常生活に役立つ外国語版(英語・中国語)の便利帳を作成して配付する。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の多文化共生に関する理解を促進するため、多国籍の人と市民が交流する場を創出する必要がある。 ・異文化交流、国際交流の事業展開に際しては、国際交流協会と連携・協働を進める必要がある。 		

③実践的な外国語教育の充実		達成状況															
担当課	学校教育課・生涯学習課	B															
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校の英語活動及び英語授業を推進するため、外国青年招致事業により、外国語指導助手（ALT）3名を配置した。 ・教職員と外国語指導助手（ALT）によるTT授業を通して「効果的なTT授業の進め方」について研究協議をした。また、金沢教育事務所の指導主事から「今後の外国語活動の最新情報」についての情報提供や「効果的なTT授業の進め方や評価」について指導助言を受けた。 ・市民の国際交流・国際理解への関心を高めるため、国際交流員（CIR）を、かほく市出前講座、中央図書館でのおはなし会、子育て支援センター、保育園、小学校、市国際交流協会の行事等へ派遣した。 ・国際交流員の市行事への派遣については24回を数えたほか、市民団体や学校からの要請による派遣（かほく市出前講座、小学校、かほく市国際交流協会等の行事）が28回を数えた。対象者の属性（年齢・性別）に偏りなく、多くの市民と交流する機会となった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期学習指導要領では、小学校5年生からの外国語教育の教科化（平成30年度先行実施、32年度全面実施）、小学校3年からの外国語活動、さらに市独自の小学校1年生からの外国語活動も計画しており、特色ある外国語活動の取組を検討する必要がある。 ・ALTに対する学習指導要領に基づく指導カリキュラム等への理解、その他指導方法など必要となる研修の実施を図る必要がある。 ・子どもたちが外国語に慣れ、異国の文化や習慣等を理解し、コミュニケーションできる力を高める必要がある。 ・国際交流員の市民団体や学校からの要請による派遣回数、市の事業として実施している派遣回数を上回ることが望ましい。そのためには、現在実施している市民団体や学校からの要請による派遣の内容を充実させ、市民の関心を高めることが必要である。 																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>数値目標項目</th> <th>H24年度 (実績値)</th> <th>H26年度 (実績値)</th> <th>H27年度 (実績値)</th> <th>H28年度 (実績値)</th> <th>H30年度 (目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国際理解教室等開催数(CIR派遣)</td> <td>50</td> <td>91</td> <td>78</td> <td>52</td> <td>71</td> </tr> </tbody> </table>						数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)	国際理解教室等開催数(CIR派遣)	50	91	78	52	71
数値目標項目	H24年度 (実績値)	H26年度 (実績値)	H27年度 (実績値)	H28年度 (実績値)	H30年度 (目標値)												
国際理解教室等開催数(CIR派遣)	50	91	78	52	71												

基本的方向 7 - (2) 人権教育の推進

① 学校における人権教育		達成状況
担当課	学校教育課	A
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科、道徳など教育活動全体を通じた人権教育の推進に取り組んだ。特に人権週間の期間においては、各校で人権講演会を企画するなど人権意識の高揚を図った。 金沢地方法務局及び市民生活課と連携を図り、「人権の花」運動、人権教室、人権問題講演会などを実施した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 広く地域の人材を活用した人権教育の推進が必要である。 人権週間における各校の取組が一層充実したものとなるよう努めていきたい。 		

② 人権意識の向上に向けた活動の推進		達成状況
担当課	生涯学習課	B
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 市民生活課人権擁護担当との共催により、10月8日に人権に関する映画の上映会及び人権教室を実施し、一般市民280人が来場した。映画は「愛を積むひと」を上映し、上映前に行った人権教室では、法務省の人権イメージキャラクター「人KENまもる君」と「人KENあゆみちゃん」が来場し、人権への理解を啓発した。また、映画上映会の来場者には、パンフレットやクリアファイル等の人権啓発グッズを配布した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 人権意識の啓発活動については、引き続き進める必要がある。 多数の参加を得ることができる映画上映会については、効果的な啓発機会として継続して行っていく必要がある。また、チラシの全戸配布やいいメールかほく、ホームページへの掲載も周知活動として引き続き行なっていく必要がある。 		

Ⅲ 資 料

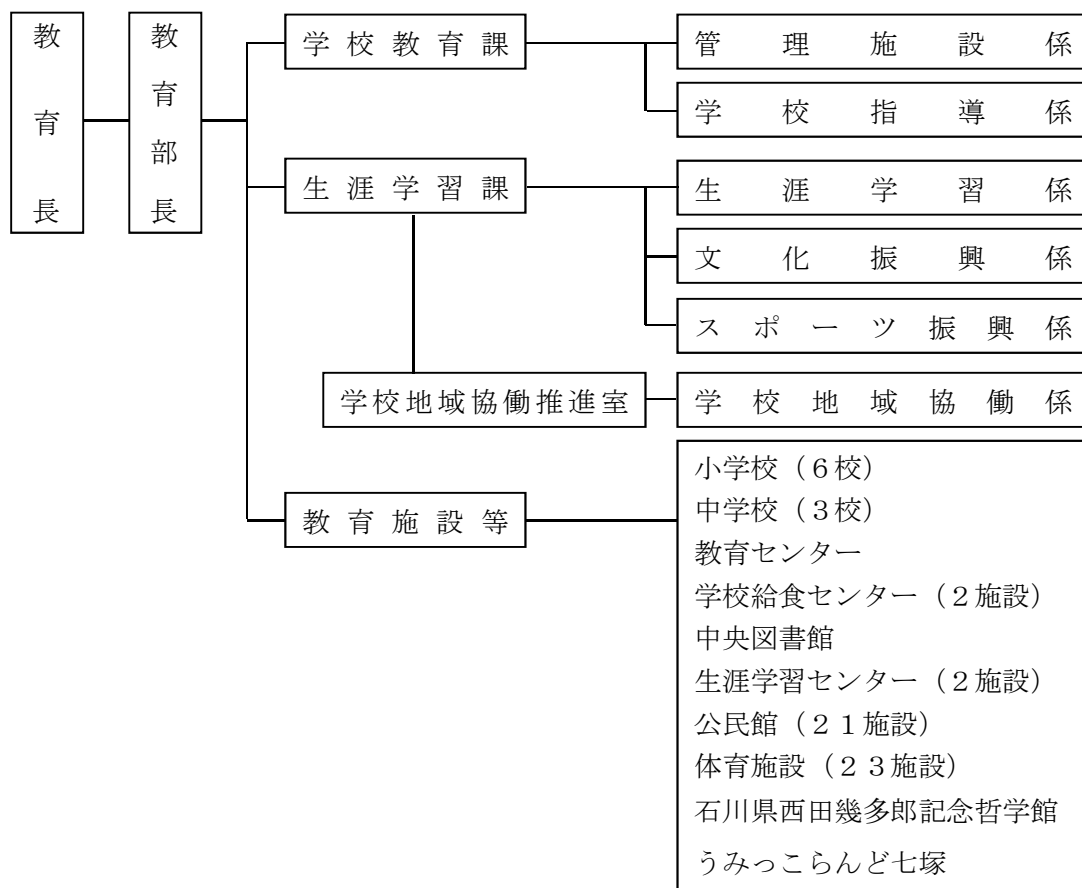
1 教育長・教育委員会委員名簿

(平成29年5月1日現在)

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	山 越 充	平成28年4月28日～平成31年4月27日
教育長職務代理者	山 本 滝 男	平成26年4月28日～平成30年4月27日
教 育 委 員	松 井 三 枝 子	平成29年4月28日～平成33年4月27日
教 育 委 員	長 柄 悦 子	平成27年4月28日～平成31年4月27日
教 育 委 員	南 文 夫	平成28年4月28日～平成32年4月27日

2 教育委員会の組織

(平成29年4月1日現在)



3 教育機関等

(1) 小学校

(平成29年5月1日現在)

名 称	開設年月日	児童数
かほく市立高松小学校	明治 6 年	378人
かほく市立大海小学校	明治 8年 1月	99人
かほく市立七塚小学校	明治 6年 7月 4日	246人
かほく市立外日角小学校	明治 8年11月17日	383人
かほく市立宇ノ気小学校	明治 8年 4月10日	612人
かほく市立金津小学校	明治 6年11月	84人

(2) 中学校

(平成29年5月1日現在)

名 称	開設年月日	生徒数
かほく市立高松中学校	昭和22年 4月 1日	275人
かほく市立河北台中学校	昭和32年 4月 1日	334人
かほく市立宇ノ気中学校	昭和22年 4月 1日	461人

(3) 教育センター

(平成29年4月1日現在)

かほく市教育センター	
------------	--

(4) 学校給食施設

(平成29年4月1日現在)

かほく市第1学校給食センター	かほく市第2学校給食センター
----------------	----------------

(5) 社会教育施設

(平成29年4月1日現在)

かほく市立中央図書館	かほく市七塚生涯学習センター
かほく市宇ノ気生涯学習センター	石川県西田幾多郎記念哲学館
かほく市うみっこらんど七塚	かほく市高松公民館
かほく市二ツ屋公民館	かほく市長柄町公民館
かほく市木津公民館	かほく市松浜公民館
かほく市遠塚公民館	かほく市浜北公民館
かほく市秋浜公民館	かほく市外日角公民館
かほく市白尾公民館	かほく市森公民館
かほく市指江公民館	かほく市至誠が丘公民館
かほく市気屋公民館	かほく市宇気公民館
かほく市七窪公民館	かほく市宇野気公民館
かほく市内日角公民館	かほく市大崎公民館
かほく市金津公民館	かほく市上田名公民館

(6)社会体育施設

(平成29年4月1日現在)

かほく市高松体育センター	かほく市七塚体育センター
かほく市宇ノ気体育センター	かほく市河北台健民体育館
かほく市宇ノ気南部体育館	かほく市宇ノ気新化館
かほく市金津体育館	かほく市七窪体育館
かほく市宇ノ気スポーツセンター	かほく市河北台体育館
かほく市宇ノ気体育館	かほく市うのけ総合公園陸上競技場
かほく市サッカー・ラグビー競技場	かほく市七塚中央公園多目的運動広場
かほく市高松野球場	かほく市宇ノ気野球場
かほく市金津ソフトボール場	かほく市七塚テニスコート
かほく市高松グラウンド・ゴルフ場	かほく市七塚武道館
かほく市高松弓道場	かほく市宇ノ気弓道場
かほく市アクロス高松	

4 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成28年度

かほく市教育委員会点検及び評価報告書

発行年月：平成29年 8月

発行者：かほく市教育委員会

学校教育課 TEL 076-283-7136 / FAX 076-283-3643
E-mail : gakkou@city.kahoku.lg.jp
生涯学習課 TEL 076-283-7137 / FAX 076-283-3643
E-mail : syougai@city.kahoku.lg.jp

〒929-1195 石川県かほく市宇野気ニ81番地（かほく市役所内）

URL : <http://www.city.kahoku.ishikawa.jp/>